

ノ日ニ奮張シ國威ヲ薄海ノ外ニ宣揚シタマハントス即  
 今前日大閱ノ盛舉亦以テ 聖慮深遠ノ一端ヲ窺フニ足  
 レリ顧フニ強兵ノ基源固ヨリ富國ニ在ツテ食ヲ足スユ  
 ト尤モ兵ヲ足スノ先務タルトキハ則チ臣 マスマス殖産  
 興業ノ一日モ忽カニスヘカラスシテ水利ノ專業亦頗ル  
 富強ニ關係アルヲ見ル  
 陛下尙武ノ夙旨モ亦蓋茲ニ外ナラサルヲ知ル此レ又 臣  
 區々ノ志日夜汲々トシテ此ノ工事ニ奮銳スル所以ナリ  
 若シ夫レ工事ノ綱要物料ノ統計ハ錄シテ別表ニ在リ  
 天覽ヲ賜ハ、幸甚 臣 國道 誠惶誠恐頓首頓首謹奏ス  
 明治二十三年四月九日 京都府知事從四位勳三等北垣國道

別表

琵琶湖疏水工事成績

一 幹線水路 延長六千七百七間七厘

近江國大津三保崎湖岸ヨリ山城國京都市鳴川東岸  
 ニ至ル

築地 二

京都築地ト稱ス幹線第一首位ニ在リ大津運河

開鑿及ヒ第一隧道堀鑿土石ヲ以テ之ヲ築ク

甲 長百二間 幅三十間

乙 長九十間 幅二十間

運河 延長四百二間四分四厘

湖岸ヨリ第一隧道東口洞門ニ至ル

閘門及堰門 各一



右ノ運河中ニ設クル所暴漲ヲ禦キ水量ヲ整フ  
ルモノ

架橋 三

右ノ運河ニ架スル所曰三保崎曰北國曰鹿關

第一隧道 長千三百四十間

大津三井寺山下ヨリ滋賀郡藤尾村ニ至ル

井狀坑 二

其一ハ第一隧道西口洞門ヲ距ルコト九百三十

二間六分四厘深百五十尺五寸

其二ハ第一隧道西口洞門ヲ距ルコト百六十五

間深六十九尺二寸

運河 延長二千二百七十三間一分四厘

第一隧道西口洞門ヨリ第二隧道東口洞門ニ至

ル

舟溜 三

一ハ四宮村一ハ諸羽一ハ上野村ニ在リ

架橋 六

曰藤尾曰十禪寺曰毘沙門堂曰安祥寺曰妙應寺

曰封山

水路橋 一

宇治郡安朱川ニ架ス長十間

第二隧道 長六十八間五分

宇治郡御陵村ニ在リ

運河 延長百四十五間二分

第二隧道西口洞門ヨリ第三隧道東口洞門ニ至

ル



舟溜 一

御陵村ニ在リ

第三隧道 長四百六十七間

宇治郡日岡村山下ニ在リ

運河 延長九十二間二分九厘

第三隧道西口洞門ヨリインクラインニ至ル

インクライン 長三百二十間

日岡ヨリ南禪寺町ニ至ル鐵軌四條ヲ布設シ舟

ヲ上下ス

運河 延長九百九十八間五分

南禪寺町舟溜ヨリ鳴川東岸ニ至ル

舟溜 三

一ハ日岡一ハ南禪寺町一ハ聖護院町ニ在リ

開門及堰門 各一

聖護院町ニ在リ

架橋 六

一ハ日向神社道一ハ南禪寺町一ハ廣道一ハ二

條一ハ聖護院町一ハ川端通りニ在リ

一枝線水路 延長四千六百十五間一分九厘

宇治郡日岡村ヨリ京都市南禪寺鹿ヶ谷吉田ノ各町

愛宕郡田中下鴨ノ二村ヲ經テ京都市小川頭ニ至リ

堀川ニ合ス

枝線水路 延長十間

幹枝分岐ノ所ヨリ第四隧道洞門ニ至ル

第四隧道 長七十五間

大日山下ニ在リ



枝線水路 延長百七十六間四分二厘  
 第四隧道北口洞門ヨリ南禪寺中水路閣ニ至ル  
 水路閣 長五十一間二分五厘  
 南禪寺中ニ在リ  
 枝線水路 延長三十六間七分  
 水路閣ヨリ第五隧道南口洞門ニ至ル  
 第五隧道 長五十六間  
 南禪寺山下ニ在リ  
 枝線水路 延長七十一間三分七厘  
 第五隧道北口洞門ヨリ第六隧道南口洞門ニ至ル  
 水溜 一  
 第六隧道南口ニ在リ

第六隧道 長百間  
 若王寺山下ニ在リ  
 枝線水路 延長四千三十八間四分五厘  
 第六隧道北口洞門ヨリ京都市小川頭ニ至ル  
 水溜 二  
 一ハ若王寺ニ一ハ田中村ニ在リ  
 架橋及樋路 各十餘箇所  
 右枝線水路中ニ在リ  
 伏樋 二  
 高野加茂兩川底ヲ過シルモノ  
 一 水理經畫  
 幹線之部  
 水量 一秒時間 三百立方尺



水力	一秒時間	三尺ヨリ四尺
水面		
運河		十九尺ヨリ六十尺
隧道		十六尺
水深		
運河		五尺
隧道		六尺
勾配		
湖岸	ヨリインクライン上マテ二千分一ヨリ三	
千分一		
インクライン		十五分ノ一
インクライン	下ヨリ	鳴河迄水平
枝線之部		

水量	一秒時間	五十立方尺
水力	一秒時間	一尺九寸ヨリ十尺マテ
勾配		百分一ヨリ二千五百分一迄
工費		
金百拾九萬九千八百八拾六圓六拾八錢八厘		總額
内譯		
金壹萬四千六百四拾三圓五拾壹錢九厘		測量費
金九萬三千四百拾七圓九拾六錢貳厘		土地買上費
金八拾四萬五千百壹圓七拾四錢壹厘		工事費
金三萬貳千五百八拾八圓六拾八錢貳厘		木材費
金拾貳萬七千五百七拾三圓三拾七錢貳厘		煉瓦製造費
金貳萬六千六百拾圓五拾貳錢六厘		器械費
金貳萬三千六百拾六圓三拾貳錢四厘		建築費



金壹萬五千五百圓	雜給
金壹萬貳千三百三拾三圓六拾五錢九厘	雜費
金貳萬九千五百圓	準備金
右十七年度ヨリ廿三年度迄決議額	
人夫	四百萬人
土地買上	八十町六反步
堀鑿土石	十二萬五千立坪
築立土積	四萬五千立坪
使用物料	
煉瓦	千四百五十萬個
木材	五百萬才
石材	二萬六千平坪
火藥	七千貫目

電管	二十八萬發
導火	五十七萬尺
粘土	六千立坪
セメント	二萬五千樽
輕便鐵道	十哩
蒸氣罐	七個
石炭	五百五十萬斤

附記 明治十四年以降京都大津間ノ測量及水路ノ撰定ニ着手シ同十六年勸業諮問會ヲ開キ起功ノ可否ヲ諮問シ又工費ノ支辦法ヲ上下京聯合區會ニ付議セシニ孰モ全會一致ノ賛成ヲ得同十八年一月起功ノ特許ヲ蒙リ同六月起功式ヲ行ヒ六箇年ヲ期シテ成功ノ目的ト爲シ同八月始メテ工事ニ着手セシモ爾來四年八箇月ヲ閱シテ



竣功ス

奏シ了テ左ノ勅語アリ

勅語

疏水ノ工事竣ルヲ告ク吏民協戮ノ功洵ニ嘉ス可シ從來我國美術工藝ノ盛ナル此土ヲ最トス自今此水利ニ籍テ以テ人工ヲ資ケ倍々精良ヲ加ヘ他日ノ殷富ヲ期セヨ

明治廿三年四月九日

式了テ樂隊奏樂

兩陛下ハ府知事ノ御先導ニテ暫時御休憩ニ就カセラレ直ニ御乗車中嶋西手ノ新橋ニ向ハセラル、ノ際府會議員及都下ノ故老高齢ノ者二十一名ニ拜禮ヲ許サレ川端橋北詰ヲ北へ丸太町ヲ西へ堺町御門ヲ北へ建禮御門ヨリ還幸アラセラレタリ此日 鳳輦拜觀ノ爲メ府下及近府縣人民通

御ノ路傍ニ填塞充滿其ノ數萬ヲ以テ數フヘキ景況ナリシ  
賞與式

同日午後五時式場内ニ於テ賞與式ヲ舉ク北垣府知事正面ニ着席シ市參事會員市會議員ハ左列シ疏水事務所員ハ右列ス樂隊奏樂座定テ撤ス尾越事務所長ハ長官ノ前ニ進ミ祝文ヲ朗讀ス

夫レ物産ヲ轉輸シ土地ヲ富饒ニスルハ古來未タ嘗テ河渠ノ利漕運ノ便ニ頼ラスンハアラス然ルニ京都ノ地勢タル襟山帶水風氣清淑極メテ上國樂邦タリト雖モ獨リ此ノ利便ニ於テ從來闕如ノ憾ナカラス況ンヤ世運開明海外交通商法工業日一日ヨリ競争ノ今日ニ在リテナヤ豈故態ニ因襲シ新策ヲ求メス袖手徒觀スヘキノ秋ナラシヤ閣下夙シ茲ニ見ル所アリ明治十四年二月就任ノ始



二百六  
メ即チ琵琶湖水脈疏通ノ案ヲ立テラレ爾來測量調査皆  
其精密ヲ極メ利アツテ害ナシ事必行スヘキヲ以テ同十  
六年十一月乃チ之ヲ勸業諮問會ト聯合區會トニ付議セ  
シニ兩會俱ニ本案ヲ可決シ起工ヲ協賛ス民情既ニ團結  
スルコト此ノ如キヲ以テ閣下乃チ具サニ主務省ニ建議  
稟請シ往復數回十八年二月ニ至テ始メテ其允許ヲ得タ  
リ此レ疏水計畫ノ一定シ其事務ノ發端スル所ナリ抑モ  
本工百般ノ事務ハ元ト京都市民ノ負擔ニ屬スヘキノ計  
畫ナリト雖ヒ絶大ノ工業至難ノ事務之ヲ統領經紀スル  
モノナカルヘカラサルヲ以テ特ニ内務大臣ノ允許ヲ經  
テ閣下直チニ其責任ニ當リ府員ニ分任シテ之ニ從事セ  
シメントシ其年三月疏水掛リヲ府廳内ニ置キ職務規定  
ヲ定メ其六月遂ニ起工式ヲ舉ケ尋テ八月始メテ工事ヲ

起興シ爾來其工場ノ開進ニ隨ヒ事務所ヲ藤尾村ニ小關  
ニ大津ニ山科ニ蹴上ニ分置シ其物料ノ需用ニ隨ヒ木材  
ノ蒐集所煉瓦ノ製造場ヲ便地ニ開設シ百方經營夙夜董  
督シ今ヤ則チ庶役竣成湖水疏通ノ功ヲ見ルニ至レリ從  
事ノ吏員等大凡一百五十八名使役ノ人夫大凡四百萬人  
ニシテ其各件ノ費消ヲ通計概算スルトキハ都テ金壹百  
拾九萬九千八百八拾六圓ナリ而シテ工事成功ノ期ニ至テ  
ハ當初ハ滿六年ノ目的ナリシモ閣下ノ督勵議員ノ協賛  
從事吏員技手ノ勤勉ニ由テ終始全ク滿四年八箇月ヲ以  
テ告竣セリ嗚呼絶大ノ工業至難ノ事務ニシテ奮ニ其竣  
期ヲ愆マタサルノミナラス且ツ一歲餘ニ先ンシテ成功  
シ加之ソノ成功ニ際シ恰モ 車駕ノ西巡ニ遭遇シ本日  
乃チ 鳳輦ヲ奉迎シ以テ疏水ノ式ヲ舉クルヲ得天明ヲ



カニシテ隧道モ惠日ニ輝カサレ春暖カニシテ運河ニハ  
恩波ヲ湛ヘ上下熙々トシテ此ノ盛事ニ際會ス蕃輔無似  
ヲ以テ起工以來乏シキヲ事務所長ニ承ク臨深履薄日夜  
其失職ヲ憂慮セシモ閣下ノ提携ニ頼リ以テ今日アルヲ  
得ルヲ實ニ欣幸ニ勝ヘス但々經歷數年間ノ實狀ヲ回顧  
スレハ或ハ巖牆ニ横死負傷スル者アリ或ハ瘴濕ニ犯觸  
疾病スルモノアリ其困苦危險悲痛慘楚ナル今猶寒心酸  
鼻スヘキコト少ナカラサルモ既ニ往事ニ屬シ恍トシテ  
昨夢ノ如ク今ヤ天澤浹洽百功成就スルヲ此ノ如キトキ  
ハ凡ソ本役ニ關係セシモノ孰レカ其光榮ニ與カラサラ  
ン死者ニシテ知ルアラハ想フニ地下ニ満足スヘキナラ  
ン蕃輔感喜ニ勝ヘス敢テ工事ノ梗概ヲ具陳シ以テ閣下  
カ其責任ニ辜負セス果シテ京都ノ爲メニ絶大無前ノ利

便ヲ開成セラレシヲ祝ス

京都府疏水事務所長

明治二十三年四月九日 京都府書記官正六位勳六等尾越蕃輔

次ニ四等技師田邊朔郎ハ工事申告文ヲ朗讀ス

明治二十三年四月九日疏水工事成功ヲ告ク疏通ノ式ヲ  
行フ不肖朔郎職技師ニ在リ專ラ此事ニ與カリシヲ以テ  
今其梗概ヲ擧ケ水源ヨリ順次ニ列記セン抑モ水路ノ幹  
線ハ東琵琶湖ニ起リ西鳴川ニ達ル之カ擔當ヲ分畫シ五  
區トナス其第一區ハ大津工場ニ屬シ第一隧道東口ヨリ  
ノ堀鑿ト湖水ニ連ル鑿河及ヒ甲乙築地ヲ經營シ其第二  
區ハ即チシヤフト工場ニシテ地質試驗空氣流通光線注  
射ノ三用ヲ兼ヌル第一シヤフト及ヒ同坑下ヨリ東西ニ  
分岐シ第一隧道本線ノ聯絡ヲ主掌シ其第三區ハ藤尾工



場ニシテ又は第一隧道西口ヨリノ掘鑿及ヒ洞門以西四  
 宮村ニ至ル運河開鑿ニ從事シ其第四區ハ山科工場ニシ  
 テ第二第三隧道及ヒ安朱御陵日岡各村ニ亘ル運河ヲ管  
 理シ其第五區ハインクライン及ヒ本線鴨川ニ至ル運河  
 ト枝線第四第五第六ノ三小隧道ヨリ市街小川頭ニ達ス  
 ル水路ノ開鑿築造ヲ監督セリ工事成績使用物料ハ左ノ  
 如シ

起工ヨリ成功ニ至ル操業 四年八箇月  
 大小六隧道長 二千百間  
 開門堰門 各二箇所  
 インクライン一箇所長 三百二十間  
 橋梁 十七箇所  
 水路閣一箇所長 五十間

幹枝線水路延長 一萬六百二十間  
 掘鑿土石 十二萬五千立坪  
 築立土積 四萬五千立坪  
 使用物料  
 人夫 四百萬人  
 土地買上 八十町六反歩  
 煉瓦 千四百五十萬個  
 木材 五百萬才  
 割石 二萬千平坪  
 切石 二十萬才  
 雷管 二十八萬發  
 爆烈藥 七千貫目  
 導火 五十七萬尺



粘土

六千立坪

セメント

二萬五千樽

輕便鐵道

十哩

蒸氣罐

七個

石炭

五百五十萬斤

右謹テ申告ス

明治二十三年四月九日

京都府四等技師田邊朔郎

次ニ市會議長中村榮助ハ府知事ニ向テ謝狀ヲ奉呈ス

畏クモ其位ヲ天ニ豎立シ御聖文武ナル

天皇 皇后兩陛下 御臨幸アラセ賜ヒ茲ニ琵琶湖疏水

工事竣功ノ盛典ヲ舉ク 臣等 京都市民ノ光榮何物カ之ニ

如カン 榮助等 坐ロニ工事起業ノ前日ヲ思ヒ工事竣功ノ

今日ヲ觀中心歡喜ノ情ニ堪ヘサルモノアリ茲ヲ以テ我

京都市會ハ北垣府知事閣下ノ勤勞ヲ拜謝シ併セテ閣下ノ功勳ヲ表彰セントス抑モ此事業タル我邦未曾有ノ大土功ニシテ古來開鑿ヲ試ミントセシモノアリト雖モ一モ其志ヲ達スルモノナカリキ閣下任ニ本府ニ臨マル首トシテ京都ノ衰運ヲ挽回シ繁榮ヲ永遠ニ期スル所以ヲ講求シ英謀勇斷此無前ノ大工事ニ着手ス誰カ閣下ノ企圖遠大ナルニ驚カサラン且工事ヲ起スニ先々之ヲ府下商工實業者ニ諮詢シ之ヲ上下京聯合區會ニ附議シ一々輿論ヲ採納シ民心ノ歸嚮スル所ニ從ヒ然ル後開鑿ニ從事セシメラレタルハ誰カ閣下ノ胸度恢豁事ヲ舉クルノ公共ナルヲ喜ハサラン工事既ニ起テヨリ以來閣下特ニ鞠躬盡力勵精配慮時ニ困迫ニ遭フテ愈心ヲ寬ニシ終始堅忍不拔ノ志ヲ抱キ克ク政府ノ間ニ處シ克ク人民ノ心



二百十四  
ヲ繋キ克ク部下ノ衆庶ヲ勵マシ指揮咸ク宜キニ稱ヒ今  
ヤ五年間ノ星霜ヲ經テ全ク此工事ヲ成就セシメタルハ  
誰カ閣下ノ精神ト材幹トヲ稱嘆セサラン而シテ事業ノ  
目的タル一ハ運河ヲ開通シ以テ舟楫ノ便ヲ興シ一ハ水  
力ヲ利用シテ電氣ヲ起シ以テ機械運轉ノ資ニ供シ凡百  
製品ノ原力ヲシテ際限アルコトヲク窮極スルコトヲカ  
ラシムルニ在ルハ是京都市民ノ爲メニ無盡ノ富源ヲ開  
發シタルナリ思フテ茲ニ至レハ榮助等ハ何ヲ以テ閣下  
ノ鴻恩ニ酬ヒ奉ルヘキカ蓋シ閣下ノ功德ハ業ニ己ニ此  
絶大ナル事跡ト共ニ朽ルナカルヘキヲ以テ更ニ表彰ス  
ルヲ須フヘカラサルカ如シト雖モ人民ノ代表者トシテ  
豈默スヘケンヤ此故ニ聊カ微衷ヲ表サン爲メ閣下偉業  
ノ一斑ヲ列記シ此蕪辭ヲ呈ス若シ夫レ閣下カ全豹ノ美

ニ至テハ別ニ紀念ノ豐碑ヲ樹テ偉勳鴻德ヲ金石ニ銘鑲  
シテ以テ萬世ニ貽スヘキナリ嗚呼今ノ時ニ際シ榮助等  
市民ハ若シ目傲リ心驕リ起業當年ノ精神ヲ失ヒ此水力  
ヲ活動運用スルコトヲ誤リ更ニ疏水ノ一大目的ヲ達ス  
ルコトナクシハ碧玉ヲ抱ヒテ淵ニ沈ムノ類タルノミ嗟  
乎豈愈益奮勵シ勤勉シ忍堪シ以テ上ハ  
陛下ノ寵光ニ對ヘ奉リ下ハ閣下積年ノ大計ニ應フルコ  
トヲ忘ルヘケンヤ

京都市民代表者

明治二十三年四月九日

市會議長 中村榮助謹白

奉呈

京都府知事北垣國道殿閣下

次ニ市會議長中村榮助ハ尾越疏水事務所長田邊技師嶋田



技手ニ向テ謝狀ヲ朗讀ス  
 琵琶湖疏水工事竣功ヲ告クルニ當リ我カ京都市會ハ深  
 シ尾越事務所長田邊四等技師及嶋田二等技手各位坐下  
 ニ對シテ哀情ヲ表彰セサルヲ得サルモノアリ夙ニ北垣  
 府知事閣下カ京都將來ノ繁榮ヲ企圖シ疏水工事案ヲ上  
 下京聯合區會ニ附議セラル、ヤ市民亦百年ノ大計ヲ圖  
 ラント欲シ奮テ此大土工ニ着手シタリ爾來茲ニ五年間  
 ノ星霜ヲ經過シ奮テ市民カ夢寐ノ間ニ成功ヲ期シタル  
 此工事ヲシテ今ヤ全ク成就セシムルヲ得タリ而シテ各  
 位ハ終始協賛合議朝ニ危險辛楚ノ難ヲ冒シ夕ヘニハ櫛  
 風浴雨ノ苦ヲ忍ヒ測量精密ニシテ其方算ヲ誤ラス開鑿  
 着々實効ヲ奏シ又其事務ヲ處理スル圓活周到一ニ克シ  
 北垣府知事閣下ヲ補佐シ又克ク市民ノ素望ニ對シテ充

分ノ力ヲ効サレタリ其功蹟ノ顯著ナルニ至テハ此大事  
 業ト共ニ朽ル事ナカルヘシ且夫レ我京都市民ハ之ヲ記  
 性ニ銘シテ子孫萬世ニ垂レントス慎テ蕪辭ヲ呈シ以テ  
 各位ノ功勞ヲ拜謝ス

京都市民代表者

明治二十三年四月九日 市會議長 中村榮助謹白

疏水事務所長尾起蕃輔殿

四等技師 田邊朔郎殿

二等技手 島田道生殿

座下

次ニ市參事會ヨリ本府出張吏員並ニ疏水事務所雇員ニ彰  
 功狀及ヒ金品ヲ贈與セリ

工師技術師ニ向テハ鞠躬盡瘁一ハ工事部ヲ總轄シ措置宜



ニ適ヒ指揮當ナ得一ハ測量部ヲ總轄シ其技ノ周密ナル之  
ヲ實地ニ施シテ異動ヲ見スト偉功ヲ彰揚シ各工場工事主  
任測量技手ニ向テハ日夜黽勉克ク其任ヲ盡セシヲ述ヘ共  
ニ絶大ノ事業ヲシテ速ニ竣功セシムルヲ得タリシ功勞ハ  
我市ノ記シテ永ク諒レサル所付屬員ニ向テハ從務中勉勵  
勘カラサルノ功勞ヲ彰慰スルニアリ

金側時計一箇ッ、

田邊 朔郎 島田 道生

銀側時計一箇ッ、

白木 爲政 南 謙三 細田 信道

石崎 長裕 山田 忠三 森 銳助

虫明 常次郎 小西 得太郎

金員 各差アリ

久松 錠次郎 松田 良知 生 咲政二郎

内藤 朝義 小澤 鉉吉 林 利喜治

矢島 治道 樋口 謙 淺野 嘉一郎

竹迫 雲八 乾 正雄 漢城 基命

和田 彌藏 野村 武次郎 平勢 秀堅

矢部 源次郎 足利 三郎 大塚 博吉

徳田 儀平 近藤 清次郎

又庶務司計兩部ノ事務ヲ擔當セシ屬官ニ向テハ複雑ノ事  
務ヲシテ克ク整理明確ナラシムルノ功勞ハ我市ノ記シテ  
永ク諒レサル所ト述ヘ又付屬員ニ向テハ從務中日夜勉勵  
ノ功ヲ彰ハシ勞ヲ慰スルニ在リ

銀側時計一箇ッ、

野村 永保 畑 康太郎 若松 雅太郎



小畠 正生 大原 午之助 金子 近明

金員 各差アリ

藤島 宗保 阿形 精一 服部 壽太郎

大島 窪之助 富村 爲政 大角 友信

高木 二三郎 田中 義信 近藤 幸馬

今井 勝治 西村 眞介 安井 常次郎

又辭職セシ舊理事非職而區長在勤中兼務ノ司計長ニ對シ  
其他轉任セシ舊事務所員ノ庶務司計兩部ノ事務ヲ執リシ  
吏員ニハ複雑ノ事務ヲ克ク整理明確ナラシメシ偉功ヲ彰  
揚シ工事測量兩部並ニ煉瓦製造事業ニ從事セシ吏員ニハ  
擔當中克ク其任ヲ盡シ絶大ノ事業ヲシテ竣功セシムルヲ  
得タリト述ヘ共ニ市ノ記シテ永ク諉レサル意ヲ表シ暨務  
器械手付属員ニハ日夜勉勵ノ功勞勤カラサルヲ表彰シ各

通ノ彰功狀ヲ贈與セリ

阪本 則美 竹村 藤兵衛 杉浦 利貞

巖本 範治 増田 正 角倉 玄親

山東 昶一 丸田 本正 片山 正中

兒島 定七 長源 三郎 川北 鋤三郎

羽田 信用 野田 鼎三

又本工請負事業中最モ著シキ第一隧道及水路閣ノ二工事  
ヲ負擔セシ日本土木會社大阪支社長久原庄三郎及同社員  
飯田信義ニハ本邦未嘗有ノ長洞比類ナキ至難ノ工事ヲ專  
ラ負擔シ拮据勉勵施工宜ヲ得タル功蹟ヲ述ヘ京都建築組  
三上吉兵衛ニハ水路閣ノ築造完全堅牢施工ノ宜ヲ得ルト  
工事用達ノ便利ヲ與ヘシト勘カラサル功勞ヲ述ヘ共ニ市  
ノ記シテ永ク諉レサル意ヲ表スル彰功狀ヲ贈與ス



同日府知事ハ疏水事業ニ服務セシ尾越所長田邊技師以下本府ヨリ出張ヲ命セシ属官技手雇員ノ事務勉勵ヲ賞シ年俸十二分ノ一及ヒ月俸全額ヲ下賜セラル

年俸十二分ノ一

月俸全額

- |    |     |    |    |    |     |
|----|-----|----|----|----|-----|
| 尾越 | 蕃輔  | 田邊 | 朔郎 |    |     |
| 島田 | 道生  | 白木 | 爲政 | 畑  | 康太郎 |
| 若松 | 雅太郎 | 小島 | 正生 | 南  | 謙三  |
| 大原 | 午之助 | 金子 | 近明 | 細田 | 信道  |
| 石崎 | 長裕  | 山田 | 忠三 | 虫明 | 常次郎 |
| 小西 | 得太郎 | 森  | 銳助 | 久松 | 錠次郎 |
| 小澤 | 鉉吉  | 藤島 | 宗保 | 徳田 | 儀平  |
| 阿形 | 精一  | 松田 | 良知 | 生咲 | 政二郎 |

- |   |     |    |    |    |    |
|---|-----|----|----|----|----|
| 林 | 利喜治 | 富村 | 爲政 | 大角 | 友信 |
|---|-----|----|----|----|----|

内藤 朝義 服部 壽太郎

又辭職非職轉任等セシ舊事務所員ノ属官技手雇員ニ從務中ノ勉勵ヲ賞シ金員ヲ下賜セラル、ト差アリ

- |     |    |    |    |    |     |
|-----|----|----|----|----|-----|
| 阪本  | 則美 | 野村 | 永保 | 丸田 | 本正  |
| 片山  | 正中 | 増田 | 正  | 山東 | 昶一  |
| 兒島  | 定七 | 巖本 | 範治 | 田中 | 義一  |
| 青木  | 政徳 | 吉田 | 茂勝 | 角倉 | 立親  |
| 今田  | 千柄 | 足立 | 恐三 | 近藤 | 就運  |
| 佐久間 | 廣業 | 前野 | 龍一 | 尾形 | 銀之助 |
| 曾我  | 壽  | 毛里 | 保  | 細川 | 信磨  |

又府知事ヨリ市長ノ資格ヲ以テ本工事ニ從務セシ常務員土木常設委員ニ對シ就任中拮据經營奔走盡力不屈不撓ノ



精神ヲ以テ此事業ヲ幫助シ遂ニ絶大無前ノ大土功ヲシテ  
豫期ニ先ツク一年餘ニシテ竣功ヲ告ク得セシメシ勞ヲ謝  
スルノ狀ヲ付與セリ

東枝 吉兵衛 下間庄右衛門 大澤 善助

堤 彌兵衛 朝尾 春直 熊澤 直行

畑 道名 河野 通經 高木 文平

河村 清七 兒島 定七 川端 庄作

古川 爲三郎 福住源太郎 田中善右衛門

栗山 敬親 木村與三郎 玉水新太郎

竣功夜會

竣功夜會

同月八日午後八時疏水竣功祝賀ノ爲メ川端通夷川東北ニ  
入ル運河々畔ニ於テ夜會ヲ開ク來賓ハ

皇 族 五親王 内 閣 十一大臣

親任官	二人	勅任官	六人
將官	九人	供奉官	百十三人
府縣知事	十五人	各國領事	九人
御雇外國教師	七人	各省奏任官	四人
東京紳士	十三人	學校職員	一人
皇族隨行	六人	大阪師團武官	五十七人
大阪府高等官	五人	同府官	十五人
同郵便電信局	一人	同控訴院長	一人
同檢事長	一人	同始審裁判所	二人
同大林區署長	一人	同署員	八人
同府會正副議長	二人	同市部會正副議長	二人
同郡部會副議長	一人	同市部常置委員	二人
同郡部常置委員	四人	同市會議長及代理者	二人



同市參事會員	九人	同淀川沿線郡長	四人
同淀川沿線村長	七十九人	同水理委員	二十八人
同飲水試驗所員	一人	同銀行會社員	十五人
造幣局長次長	二人	第四區土木監督署技師	三人
同署員	五人	兵庫縣高等官	四人
同縣官	一人	神戶稅關長	一人
同裁判官	二人	小野濱造船所長	一人
神戶鐵道局高等官	二人	同諸會社長	四人
奈良縣高等官	四人	同紳士	一人
北海道技師及技手	二人	名古屋控訴院長	一人
同檢事長	一人	官報局編輯長	一人
滋賀縣高等官	五人	大津在衛武官	一人
滋賀縣各課長	七人	同縣官	十二人

滋賀郡長	一人	同書記	二人
大津町戸長	三人	大津病院醫員	三人
大津商業學校長	一人	大津私立病院	二人
滋賀縣會議長	一人	同常置委員	五人
大津裁判所長	一人	同所員	五人
大津商法會議所	一人	同銀行	一人
江州豪商	六人	大津飲料水委員	十三人
同水利委員	四人	京都新聞記者	五人
大阪新聞記者	七人	神戶新聞記者	二人
東京新聞記者	十四人	大津新聞記者	一人
主殿寮出張所員	二人	宮家令	三人
京都裁判官	二十五人	京都鐵道驛長	一人
京都郵便電信局長	一人	華族會館分局長副長	二人



伏見在警武官	人	京都府高等官	五人
同府官員	三百七十七人	非職書記官	二人
非職區長	二人	郡長	十人
郡吏	四人	疏水事務所員	四十五人
同舊所員	七十四人	療病院長監事	二人
學校職員	二十四人	驅梅院長	一人
地方衛生會員	五人	代 言 人	二十一人
公 證 人	三人	銀行諸會社員	三十人
神官僧侶	五人	尙齒名家	二十人
勸業諮問會員	三十四人	舊參事會員	一人
市部會員	十七人	郡部會員	四十五人
區會議員	十人	舊區會議員	六十人
舊區書記	四人	舊 戶 長	十七人

淀川沿岸町村長	十二人	疏水沿線舊 戶長用掛	十二人
工費寄附者	四十二人	教育委員	二人
餘興費寄付者	四十二人	工事請負人	三十四人
計			
會 主	府知事	二 人	
管 待	市參事會員	九 人	
	市會議員	四十人	
	區 書 記	十三人	

會場ハ川端夷川開門ノ中央及ヒ運河ノ北トシ川ノ南北ニ  
 二線門ヲ設ケ來賓ノ大阪府場門ヲ入レハ左右ニ受付ヲ設ケ  
 來會者ノ招狀ヲ受ケ之ニ代フルニ插襟造花ヲ以テシ疏水  
 略圖工事摘要等ヲ呈ス入口ノ正面ニハ北垣府知事申村市  
 會議長駢列シテ來賓ヲ迎ヘ接待委員ハ賓客ヲ各設ケノ席



ニ延ク皇族大臣親任官勅任官及ヒ府縣知事各署ノ長官ヲ  
 白菊席トシ之ヲ八角形間一方三ノ食堂ニ充テ以下ノ來賓ヲ  
 櫻花席トナシ之ヲ舟形長七十間ノ食堂ニ充テ案上各瓶花  
 酒饌ヲ排列シ簷端ニハ紅燈ヲ列テ内部ハ電氣燈ヲ點セリ  
 來賓ノ餘興ヲ添フル爲メ陸上ニハ陸軍樂隊ノ奏樂舟中ニ  
 ハ祇園囃子ノ運河ヲ上下スルアリ河ノ南側ニハ月鉾鷄鉾  
 油天神山郭巨山ヲ駢列シ鉦鼓喇叭竹笛異調同奏一節一曲  
 間斷アルナシ烟火ノ打上ケ兩處ニ於テ相發シ砲兵工廠ノ  
 烟火ハ運河ノ南岸ニテ聖壽萬歲美哉山河ノ火文字ヲ露ハ  
 シ其他舟狀鯉形等種々ノ奇巧ヲ現出シ又數十ノ竹竿長線  
 ナ惹キ西ヨリ東ヨリ走火奔焰一道ノ水路ヲシテ白晝ノ如  
 クナラシメタリキ而シテ宴闌ナルニ方リ如意山頭ニ大文  
 字ヲ燒キ數日來ノ積陰此日ヲ以テ全ク盡シ碧天寸雲ナク

東山ノ月一層ノ光輝ヲ増セリ

是ヨリ先キ府廳判任官廿六名參事會員九名市會議員十  
 名及上下京兩區長ニ命シテ各分轄擔當セシム日考案日  
 庶務日出納日建築日裝飾日通船日接待日烟火日樂隊日  
 電燈日餘興

竣功奉告祭

竣功奉告祭

疏水工事ヲ起スノ始ニ方リ大津三尾京都八阪ノ兩神社  
 ニ於テ祭典ヲ舉ケ起工ノ主旨ヲ 天智 桓武兩帝ノ皇  
 靈及ヒ沿道産土神ノ神明ニ奉告シ誓テ此工事ノ必成ヲ  
 期シタリシカ幸ニ豫定ノ年月ニ先ツ一年餘ニシテ太湖  
 ノ水ヲ鴨河ニ疏通シ得ヘキノ結果ヲ見ルニ至リシハ官  
 民協力精神一到ノ透徹スル所ト雖モ至難ノ土功絶大ノ  
 事業ヲシテ此ノ如ク容易ニ成蹟ヲ奏セシメシハ 神靈



ノ冥助ヲ蒙ルノ致ス所豈ニ獨リ之ヲ人力ニ歸シテ可ナ  
ランヤ是レ起工ノ祭事ニ相對シ竣功ヲ奉告スルノ祭儀  
ヲ行ヒ以テ終始ヲナセシ所以ナリ

二十三年四月一日京都府知事尾越森本兩書記官田邊四等  
技師及ヒ各課長市參事會員市會議員疏水事務所員午前七  
時大津三尾神社ニ參集シ且ツ滋賀縣知事書記官各課長縣  
會議員等ヲ招待シ祭儀ヲ行フ

午前八時齋主以下三尾社前祭場ニ着床シ次ニ地方長官以下  
着床シ次ニ稜物ヲ供ス 次ニ稜主稜詞ヲ奏シ 次ニ鹽水行事

次ニ太麻行事 次ニ稜物ヲ撤ス 次ニ奏樂 次ニ降神行事  
此間 次ニ神饌ヲ傳供ス 此間 次ニ幣帛ヲ案上ニ置ク 次ニ齋  
管搔 主祝詞ヲ奏ス 次ニ地方長官祭文ヲ奏ス 次ニ地方長官拜

禮 次ニ齋主以下拜禮 次ニ參會者拜禮 次ニ幣帛并神饌ヲ

撤ス 此間 奏樂 次ニ昇神行事 此間 管搔 次ニ各退出

祝詞

八十日日波在禮杼明治二十三年四月乃一日乎生日乃足日  
止何處波在禮杼樂浪乃滋賀乃縣近江國大津乃里奈留三保  
神社乎良地乃美地止撰定米豆更爾齋乃波利淨乃波利注連引  
渡志神籬植氏挂卷波恐禰禮止古昔大津宮爾天下所知食天  
命開別天皇乃大御靈乎奉招奉坐利氏配祀奉留神等波天之  
御中主神高皇產靈神神皇產靈神天照皇大御神建速素盞  
鳥神伊邪那岐神伊邪那美神大名牟遲神少彥名神彌津波  
能賣神波邇夜須毘古神波邇夜須毘賣神又都乃內外處々  
爾分掌氏宇斯波岐坐須產土乃神等乎始氏天神地祇諸天爾  
坐神波天翔利來坐志地爾坐神波地翔利來坐志氏此乃齋場  
爾神集比集比給閉止白須太古皇神等乃此大八洲國乎生成



給比修理固成給比志波代乃為人乃為爾萬便利能謀利給比  
 氏蒼海乎濫倍山岳乎造利泉水乎流志草木乎生志種々乃物  
 爾至留萬代一點計不足奴事古曾無氣禮籽毛年月乃來經行萬  
 々爾々飛鳥川淵瀨爾變遷氏初波便利善可利志毛後爾波惡  
 志久成以行事將無爾志毛非受奈毛有氣留抑此乃平安乃京波  
 往古延曆乃大御代爾始米左世給比志與利御代御代乃天皇  
 穆木乃彌繼繼爾天下所知食爾依氏遠近國國與利貴賤老若  
 時自久爾參上利來氏商人乃賣買業爾諸工業爾甚盛大奈利  
 志乎當今乃大御代止成氏明治乃始天皇東京遷行坐氏與利  
 產業乃道自然暇多美稍々爾活計乎失比終々波舊支都止荒  
 備行武止須留况狀奈留乎京都府知事勳三等從四位北垣國  
 道伊深久憂比歎支氏熟思閉良久嗚呼此平安乃京波山乃才乃  
 比川乃流禮天然奈留風致乎備閉花爾紅葉爾名勝地多久然

有留耳爾非受大支神社爾嚴支寺院爾各々其位置乎占米氏  
 眞盛奈利志當時乃狀況毛想像禮氏甚毛悲支極爾奈毛有禮留  
 其遷都乃始天皇詔志給波久以水陸之便遷都此邑言念此  
 民止又後爾波防鳴河使乎置禮氏鳴河乃水乎防加世給比又波  
 朕心爾任比奴物止左閉詔比志程奈留乎代代乎經留萬萬爾爾  
 飛鳥川奈良奴毛淵瀨爾曾換利爾爾留故水乃便利乎謀留爾如  
 自止左右思比回良志氏府民等爾諮問比協議利論比定米氏天  
 曾々利立比叡乃高峰乃麓乎堀鑿知底津巖根乃古基志岐  
 乎切疏志氏近江乃湖乃餘贏禮留乎取氏加茂川乃不足爾引支  
 然志氏京都乃經緯蜘蛛手爾分知漸次發明邪行久諸乃機械  
 運轉可志米氏頻爾職工乃業乎起志夏波田畑爾灌漑支氏旱魃  
 乃患比無良志米或波舟乎浮倍筏乎流志氏人民乃勞乎助邪牛  
 馬乃力乎省支或波飲水乃乏志支患比無良志米亦波軻遇突智



荒備乃防禦爾備倍奈波恐祢禮杼彼延曆乃帝乃大詔爾毛稱布倍  
 志止衆議一決米氏卽是乎朝廷爾請願奉良牟止國道一身爾擔  
 任氏東京爾往返留事幾十度奈利祢武年乎越衣月乎經利氏終  
 爾去志明治十八年乃春官許乎得多利支然波有禮杼毛此事也  
 他乃國爾毛吾國爾毛往古毛方今毛比例無支大事業爾志有  
 禮婆其年乃六月乃三日乃日乎撰定米氏皇神等乃大御前爾告  
 奉利奏志奉利乞祈念奉利氏其年乃八月爾事始志多利支其與  
 利以來年波六年爾巨利月波五十六箇月乎經氏事速祢久成  
 竟奴其間不意乃狂事爾遭比或波無狀支人乃口乃端爾權利  
 種々乃災害起利志毛國道身乎犧牲爾供閉得耐乃自支乎耐倍  
 得忍乃自支乎忍比辛久志氏終爾今日乃結果乎見留事爾成奴留  
 波全久國道我清支明支直支正支誠乃心乎心止志氏此事業乃  
 長止有留京都府書記官正六位尾越蕃輔乎始氏附屬倍留官

員等與利手人使丁等爾至留萬代手躡足躡無久已我乖々爲  
 事無久勉米勤米留爾依禮留事爾波雖在皇神等乃依志給比助  
 氣給布爾非禮婆何可此爾至留倍支故今日乃御祭典奉仕利禮  
 代乃幣帛止志氏明妙照妙和妙荒妙神饌波和稻荒稻神酒波  
 白酒黑酒乎甕上高知甕腹充竝氏大野原爾生留物波甘菜辛  
 菜青海原爾住物波鱒廣物鱒狹物與津藻菜邊津藻菜爾至  
 留萬代種々乃物乎橫山乃如置高成氏太玉串乎捧持氏稱辭  
 竟奉良久乎平氣久安氣久赤丹乃穗爾聞食氏自今以後此乃事業  
 近江乃海乃彌廣爾廣吳利行支賀茂川乃流彌久爾絕留事無  
 久平安乃都食盛奈利志太古爾立還利氏千歲爾万代爾堅磐  
 爾常盤爾茂志八桑枝乃如立榮志米給閉止八平手拍上氏畏  
 美畏美毛稱辭竟奉良久止白須

明治廿三年四月一日 齋主 近藤芳介



副齋主 鳥居亮信  
田中尙房

祭文

維明治廿三年四月一日京都府知事從四位勳三等北垣國  
道齋戒薰沐敬テ皇祖天智天皇在天ノ靈及疏水各線沿道  
ノ本居諸神祇ニ祭告ス蓋シ城江通漕ノ事業タル實ニ明  
治十八年八月ヲ以テ起シ其計畫企圖スル所ノ主旨當時  
具サニ神前ニ虔告スル所ノ如シ既ニシテ經營力ヲ竭シ  
功程日ニ進ミ今ヤ開鑿長渠ヲナシ疏導深源ヲ通シ終始  
纒ニ五歳ニシテ斯ノ鴻功鉅利ヲ成就シ其間上下同心鄰  
境協力曾テ一事ノ獲遏妨害スル所ナク將サニ驩然トシ  
テ通水開漕ノ盛式ヲ舉ントスルニ至ルモノ人力ト云ト  
雖モ抑モ 皇祖以下諸神祇ノ垂鑒冥祐ニ頼ルニ非スン

ハ復タ何ヲ以テカ此ニ至ラン猶歎夫レ水ヲ治ムルコト水  
ノ性ニ順フ太湖ノ流レ潤下弘遠神ヲ祭ルコト神在スカ如  
クス明神ノ威顔ヲ違ルコト咫尺對越駿奔爰ニ聊カ刊旅ニ  
擬ス庶シハ神ノ來格來饗シ福ヲ降スコト疆リナカラシ  
ナ

明治廿三年四月一日

京都府知事從四位勳三等北垣國道

此日滋賀縣官以下關係員ヲ竹清樓ニ延招シ午餐ヲ饗ス  
同日午後二時八阪社前祭場ニ於テ祭祀ヲ行フ北垣府知事  
尾越疏水事務所長財部警部長大坪收稅長田邊四等技師杉  
浦非職上京區長及各課長市參事會員市會議員上下京兩區  
長疏水事務所員參集ス此内三尾神社へ參拜ノ諸氏ハ祇園  
中村樓ニ於テ午餐ヲ供シ社殿左廂ヲ以テ休憩所ニ充ツ祭  
儀ノ次第ハ前ニ同シク但府知事祭文ヲ奏シ次ニ韓神舞ヲ



奏ス

祝詞

八十日日波在禮府明治二十三年四月乃一日乎生日乃足日  
 止何處波在禮府京都乃東名細志支八阪神社乎朝日乃直刺  
 處良地乃美處止撰定米豆更爾齋乃波利淨乃波利注連引渡志  
 神籬植氏挂卷波畏氣禮府此乃平安乃都始米給比志日本根子皇  
 統彌照天皇乃大御神靈乎奉招奉坐利氏配祀奉留神等波天之  
 御中主神高皇產靈神神皇產靈神天照皇大御神建速素盞  
 烏神伊邪那岐神伊邪那美神大名牟遲神少彥名神彌津波  
 能賣神波邇夜須毘古神波邇夜須毘賣神又都乃內外處々  
 爾分掌氏宇斯波岐坐須產土乃神等乎始氏天神地祇諸天爾  
 坐神波天翔利來坐志地爾坐神波地翔利來坐志氏此乃齋場  
 爾神集比集比給閉止白須太古皇神等乃此大八洲國乎生成

給比修理固成給比志波代乃爲人乃爲爾萬便利能謀利給比  
 氏蒼海乎滙倍山岳乎造利泉水乎流志草木乎生志種々乃物  
 爾至留萬代一點計不足奴事古曾無氣禮府毛年月乃來經行萬  
 々爾々飛鳥川淵瀨爾變遷氏初波便利善可利志毛後爾波惡  
 志久成以行事將無爾志毛非受奈毛有氣留抑此乃平安乃京波  
 往古延曆乃大御代爾始米左世給比志與利御代御代乃天皇  
 樛木乃彌繼繼爾天下所知食爾依氏遠近國國與利貴賤老若  
 時自久爾參上利來氏商人乃賣買業爾諸工業爾甚盛大奈利  
 志乎當今乃大御代止成氏明治乃始天皇東京遷行坐氏與利  
 產業乃道自然暇多美稍々爾活計乎失比終々波舊支都止荒  
 備行武止須留况狀奈留乎京都府知事勳三等從四位北垣國  
 道伊深久憂比歎支氏熟思閉良久嗚呼此平安乃京波山乃乃  
 比川乃流禮天然奈留風致乎備閉花爾紅葉爾名勝地多久然



二百四十二  
有留耳爾非受大支神社爾嚴支寺院爾各々其位置乎占米氏  
眞盛奈利志當時乃狀況毛想像禮氏甚毛悲支極爾奈毛有禮留  
其遷都乃始天皇詔志給波久以水陸之便遷都此邑言念此  
民止又後爾波防鳴河使乎置禮氏鳴河乃水乎防加世給比又波  
朕心爾任世奴物止左閉詔比志程奈留乎代代乎經留萬萬爾爾  
飛鳥川奈良奴毛淵瀨爾會換利爾留故水乃便利乎謀留爾如  
自止左右思比回良志氏府民等爾諮問比協議利論比定米氏天  
曾々利立比叡乃高峰乃麓乎堀鑿知底津巖根乃古基志岐  
乎切疏志氏近江乃湖乃餘瀛禮留乎取氏加茂川乃不足爾引支  
然志氏京都乃經緯蜘蛛手爾分知漸次發明邪行久諸乃機械  
運轉可志米氏頻爾職工乃業乎起志夏波田畑爾灌溉支氏早魃  
乃患比無良志米或波舟乎浮倍後乎流志氏人民乃勞乎助邪牛  
馬乃力乎省支或波飲水乃乏志支患比無良志米亦波軻遇突智乃

荒備乃防禦爾備倍奈波恐邪禮杼彼延曆乃帝乃大詔爾毛稱布倍  
志止衆議一決米氏卽是乎朝廷爾請願奉良牟止國道一身爾擔  
任氏東京爾往返留事幾十度奈利邪武年乎越衣月乎經利氏終  
爾去志明治十八年乃春官許乎得多利支然波有禮杼毛此事也  
他乃國爾毛吾國爾毛往古毛方今毛比例無支大事業爾志有  
禮婆其年乃六月乃三日乃日乎撰定米氏皇神等乃大御前爾告  
奉利奏志奉利乞祈念奉利氏其年乃八月爾事始志多利支其與  
利以來年波六年爾巨利月波五十六箇月乎經氏事速邪久成  
竟奴其間不意乃狂事爾遭比或波無狀支人乃口乃端爾權利  
種々乃災害起利志毛國道身乎犧牲爾供閉得耐乃自支乎耐倍  
得忍乃自支乎忍比辛久志氏終爾今日乃結果乎見留事爾成奴留  
波全久國道我清支明支直支正支誠乃心乎心止志氏此事業乃  
長止有留京都府書記官正六位尾越蕃輔乎始氏附屬倍留官



員等與利手人使丁等爾至留萬代手蹟足蹟無久已我乖々爲  
 事無久勉米勤米留爾依禮留事爾波雖在皇神等乃依志給此助  
 氣給布爾非禮婆何可此爾至留倍支故今日乃御祭典奉仕利禮  
 代乃幣帛止志氏明妙照妙和妙荒妙神饌波和稻荒稻神酒波  
 白酒黑酒乎麩上高知麩腹充竝氏大野原爾生留物波甘菜辛  
 菜青海原爾住物波鱒廣物鱒狹物奧津藻菜邊津藻菜爾至  
 留萬代種々乃物乎横山乃如置高成氏太玉串乎捧持氏稱辭  
 竟奉良久乎平氣久安氣久赤丹乃穗爾聞食氏自今以後此乃事業  
 近江乃海乃彌廣爾廣吳利行支賀茂川乃流彌久爾絕留事無  
 久平安乃都眞盛奈利志太古爾立還利氏千歲爾乃代爾堅磐  
 爾常盤爾茂志八桑枝乃如立榮志米給閉止八平手拍上氏畏  
 美畏美毛稱辭竟奉良久止白須

明治廿三年四月一日

齋主 近藤芳介  
 副齋主 鳥居亮信  
 田中尙房

祭文

維明治廿三年四月一日京都府知事從四位勳三等北垣國  
 道齋戒薰沐敬テ皇祖桓武天皇在天ノ靈及疏水各線沿  
 道ノ本居諸神祇ニ祭告ス蓋シ城江通漕ノ事業タル實ニ  
 明治十八年八月ヲ以テ起シ其ノ計畫企圖スル所ノ主旨  
 當時具サニ神前ニ虔告スル所ノ如シ既ニシテ經營力ヲ  
 竭シ功程日ニ進ミ今ヤ開鑿長渠ヲナシ疏導深源ヲ通シ  
 終始纒ニ五歳ニシテ斯ノ鴻功鉅利ヲ成就シ其間上下同  
 心鄰境協力奮テ一事ノ獲過妨害スル所ナク將サニ驩然  
 トシテ通水開漕ノ盛式ヲ舉ントスルニ至ルモノ人力ト



云ト雖モ抑モ 皇祖以下諸神祇ノ垂鑒冥祐ニ賴ルニ非  
スハ復タ何ヲ以テカ此ニ至ラン於戲前王忘ラレズ仰  
テ延曆奠鼎ノ規模ヲ想ヒ維民ノ止ル所俯シテ邦畿四境  
ノ殷富ヲ祈ル對越駿奔爰ニ聊カ刊旅ニ擬ス庶シハ 神  
ノ來格來饗シ福ヲ降スヲ疆リナカラシメテ

明治廿三年四月一日 京都府知事從四位勳三等北垣國道

死者追薦會

明治廿三年四月廿四日工事從務中死亡セシ吏員及坑夫ノ  
追薦法會ヲ南禪寺ニ行フ之ニ先ツテ數日吏員及坑夫死者  
ノ遺族ニ招狀ヲ發シ同日午後一時南禪寺ニ相會スルモ  
本府高等官各課長上下京警察署長疏水事務所員市參事會  
員市會議員水理委員土木常設委員舊常務員舊事務委員等  
八十名ニシテ此遺族及來會者ノ休憩所ハ方丈中ニテ各々

其間ヲ異ニシ臨濟宗七本山管長以下一百有餘ノ僧衆ヲ金  
地院ニ延招シ午後二時本堂ニ於テ法會ヲ行フ本導師ニハ  
南禪派管長舜應和尚點茶導師ニハ大德寺派管長牧宗和尚  
點燭導師ニハ建仁寺派管長龍關和尚ニシテ誦經ニ次テ楞  
嚴行道アリ次ニ回向文捧讀次ニ北垣府知事ノ祭文次ニ七  
本山各長老燒香次ニ遺族并ニ尾越疏水事務所長及來會者  
一同燒香畢テ解散セリ于時午後四時三十分ナリ

祭文

嗚呼我府累年經營ノ疏水工事ハ今既ニ竣功セリ其竣功  
ノ式ハ今既ニ盛ンニ之ヲ行ヘリ凡ソ工事ニ干與シテ現  
在スル所ノ吏員若クハ役夫ハ今既ニ其功勞ヲ表彰シテ  
其光榮ニ際會シタリ國道復タ何ノ憾ムル所カアラン獨  
リ憾ム所ノ者ハ其吏員若クハ役夫中ニ在テ正シク此ノ



工事ニ干與シナカラモ不幸ニシテ中道ニ歿セシ者ハ功  
 アツテ今復タ褒スルニ由ナク勞アツテ今復タ慰スルニ  
 途ナク今回ノ盛舉ヲ泉壤ニ冥想セシムルト是レノミ國  
 道各員ト談此事ニ及ヘハ未タ嘗テ相共ニ流涕シテ死者  
 ノ不幸ヲ痛マスンハアラス是ニ於テ竣功式既ニ畢ルノ  
 同月廿四日特ニ齋場ヲ茲ニ設ケ聊カ蘋醪ヲ奠シ以テ死  
 者ノ靈ニ祭告シテ曰ク嗚呼痛マシイ哉諸子ノ死ヤ其死  
 ナ致スノ狀ハ先後緩急ノ異アリト雖モ要スルニ土石ノ  
 崩壞ニ壓迫セラレシニ非レハ則チ火藥ノ爆烈ニ中傷シ  
 否ラサレハ深洞幽穴ノ瘴氣ニ觸染シ均シク工事ノ爲メ  
 ニ不虞ノ災ニ罹リ巨創重疾終ニ非命ノ死ヲ遂クルニ至  
 リシハ皆然ラサルハナシ其不幸タルモ亦甚ダシ然リト  
 雖モ凡ソ事功ノ成ルハ固ヨリ成ルノ日ニ成ルニ非サレ

ハ諸子ノ身命ハ縱ロ今日ニ現在セサルモ諸子ノ功勞ハ  
 豈終ニ永遠ニ留存セサランヤ幽明隔タルト雖モ彼ノ式  
 日ノ勅語ハ想フニ九泉ニモ貫徹セシナラン 勅語ニ  
 宣フ所ノ吏民中ニハ固ヨリ諸子ヲ含有セルキハ則チ諸  
 子モ亦衆ト同シク竣功ノ勅褒ヲ蒙リタル者ナリ諸子  
 ニシテ靈アラハ其レ慰ムル所アラシカ思フテ茲ニ至レ  
 ハ國道モ亦ヤ、憾ミヲ釋クニ足レリ唯是レ諸子カ竣功  
 ノ日ニ現在シテ衆ト偕ニ歡喜踴躍スルノ狀ヲ目撃スル  
 ナ得ス是レ國道等カ尙涙ノ收メ難キ所ニシテ爲メニ聊  
 カ此祭ヲ致ス所以ナリ嗚呼哀哉尙クハ饗ケヨ  
 明治廿三年四月廿四日 京都府知事從四位勳三等北垣國道  
 下 炬  
 鑿斷雲根通一派激泉滔滔起波爛觸岨當嶮窮非命石火電



光宇宙間

夫惟今日新戒亡靈脱垢染復

莊嚴此道場 舉三寶歸依戒

屈請各名利 薰五分澱身香

一超直入如來地

八字豁開涅槃門

勘破有為空無為空 掀翻四大海

證得理法界事法界 踢倒五須彌

雲在嶺頭閑不徹

水流澗下太忙生

喝

舜 應

淨極光通達 寂照含虛空

却來觀世間 猶如夢中事

仰冀三寶 俯垂昭鑒

大日本帝國奉三寶功德主京都市參事會員等

山門今月吉日良辰

疏水工事關係人員遭難殞命魂魄無所歸因茲參事會員等

特生大悲心資薦

佛果

虔備香華燈燭茶果珍羞以伸供養

三山贊首拈香讚揚佛事之次 謹集現前一百僧眾同音

諷誦大佛頂萬行首楞嚴神咒所集功德奉為遭難亡靈莊嚴

報地

伏願

神超淨域業謝塵勞蓮開上品之花佛授一生之記

十方三世一切諸佛諸尊菩薩摩訶薩摩訶般若波羅密



奠湯

妙術願神一盞湯

拔山疏水沒商量

死生除却無明業

五五圓通洒十方

死亡者姓名

龍關

拈

京都府六等屬

土岐長寬

京都府七等屬

內藤義次

京都府九等技手

服部晉

右瘴氣ニ感染シ遂ニ死亡

大分縣前國宇佐郡沖ノ洲村  
兵庫縣神戶區東川崎町  
京都市下京區元廿八組骨屋町

久保時藏  
大川米藏  
中川久次郎

右重傷死亡

京都府八田波國何鹿郡下田波國南桑田郡篠村波國南桑大坂府攝津國東成郡北野愛宕郡白川村京府丹波國朝來郡生野相馬國朝來郡京都府丹波國天田郡有治村京都府丹波國天田郡賀正郡近江國栗田郡追分郡近江國栗田郡滋賀縣近江國滋賀郡神出村近江國滋賀郡生野縣新馬國朝來郡兵庫縣新馬國朝來郡滋賀縣近江國滋賀郡大津縣西國滋賀郡大分縣豐後國大分郡大分縣豐後國大分郡

大槻市藏  
齋藤寅吉  
吉本榮吉  
砂子三五郎  
米山泰一郎  
藤井重介  
宮崎德松  
山野治平  
福岡浪藏  
山田幾次郎  
下郡忠治



員 疏水事務所

疏水事務所員

本章ハ明治十六年疏水事業ヲ勸業諮問會ヘ諮問シ同年又上下京聯合區會ニ工費ノ負擔ヲ附議シ同十八年起工同廿三年六月事務結了迄本事業ニ關セシ人員ヲ掲ク

拜命年月	擔當事務	被免又轉任年月	奉職年月	姓 名
十八年三月六日	疏水事務所長	廿三年六月卅一日	四年九月	書記官 尾越 蕃 輔
十八年三月六日	疏水事務所副長	廿三年六月卅一日	四年九月	同 谷口 起 孝
十八年三月六日	疏水事務所委員	廿三年六月卅一日	五年	同 森本 後 洞
十八年三月九日	司計長			下京區長 竹村 藤 兵 衛
十八年三月九日	司計長			上京區長 杉 浦 利 貞
十六年五月廿二日	工 師	廿三年六月三日	七年二月	技師 田 邊 朔 郎
十五年四月廿日	測量師	廿三年六月三日	八年三月	技師 嶋 田 道 生
十八年十一月四日	理 事	廿二年九月十日	三年十一月	同 阪 本 則 美

十六年七月七日	煉瓦製造	廿一年一月廿五日	四年四月	同 片 山 正 中
十八年	司 計			同 植 木 忠 一
十八年三月卅一日	庶務	廿三年六月三日	五年四月	同 巖 本 範 治
十七年七月十日	土地買上	十八年十二月三十一日	一年六月	同 野 村 永 保
十九年十一月二日	工 事	廿三年五月二日	三年七月	技手 白 木 爲 政
十八年十一月廿八日	測量	廿二年五月十六日	三年七月	技手 丸 田 本 正
十九年六月廿一日	工 事	廿年十月十六日	一年五月	同 土 岐 長 寛
十八年三月卅一日	司 計	廿三年六月三日	五年四月	同 畑 康 太 郎
同月九日	庶務	廿二年六月廿七日	四年三月	同 増 田 正
同月九日	木材伐採	廿一年一月廿七日	二年三月	同 角 倉 玄 親
十八年十一月十一日	工 事	廿三年六月三日	四年八月	技手 南 謙 三
同月九日	工 事	廿三年六月三日	四年八月	技手 山 東 昶 一
同月九日	編 輯	廿三年六月三日	四年七月	同 若 松 雅 太 郎
同月九日	司 計	廿三年六月三日	三年九月	同 小 島 正 生



同年六月九日	同年十二月廿三日	十八年十月十九日	十九年二月廿九日	同年一月十七日	十七年三月十三日	同月廿四日	同年十二月十五日	同年六月一日	十八年十一月四日	十五年二月十八日	十八年十二月十五日	廿五年三月三十日	同年三月廿九日
工事	庶務	工事	工事	工事	測量	土地買上	工事付屬	庶務	測量	測量	工事	工事	工事
廿三年六月三十一日	廿三年六月三十一日	同六月十二日	廿一年四月十六日	廿三年六月三十一日	廿三年六月三十一日	廿三年六月三十一日	廿三年二月十七日	廿三年六月三十一日	廿二年十二月十九日	廿三年六月三十一日	十九年九月廿八日	廿二年五月十六日	廿二年五月廿七日
五年一ヶ月	四年七ヶ月	二年九ヶ月	二年三ヶ月	六年六ヶ月	六年四ヶ月	四年七ヶ月	四年三ヶ月	五年一ヶ月	四年二ヶ月	八年四ヶ月	十ヶ月	二年一ヶ月	三年三ヶ月
技手	屬	技手	屬	技手	技手	屬	屬	屬	技手	技手	屬	技手	技手
虫明常次郎	藤嶋宗保	青木政徳	田中義一	山田忠三	森 銳助	金子近明	久松錠次郎	大原午之助	石崎長裕	細田信道	渡邊猪一	吉田茂勝	服部 晋

廿三年三月十九日	廿二年十一月三日	十九年三月十日	廿一年三月廿八日	十八年五月廿九日	十八年五月廿九日	十八年五月廿一日	十九年三月六日	廿三年三月十日	廿二年五月廿七日	廿一年一月三十一日	廿三年一月九日	廿二年十二月十七日	同年五月廿九日
工事付屬	同	庶務付屬	同	工事付屬	工事付屬	同	同	同	庶務付屬	煉瓦場主任	工事	工事	製圖
廿二年五月十四日	廿三年六月三十一日	廿二年十二月六日	廿三年六月三十一日	廿三年六月三十一日	同十九年七月廿六日	廿二年十二月十七日	廿三年六月三十一日	廿三年六月三十一日	廿三年六月三十一日	廿二年三月三十日	廿三年六月三十一日	廿二年十二月十九日	廿三年六月三十一日
二年二ヶ月	八ヶ月	三年九ヶ月	二年四ヶ月	五年二ヶ月	一年三ヶ月	四年七ヶ月	四年四ヶ月	三年四ヶ月	一年二ヶ月	一年三ヶ月	六ヶ月	二年一ヶ月	五年二ヶ月
拾月俸	拾月俸	九月俸	拾月俸	拾月俸	拾月俸	拾月俸	拾月俸	拾月俸	廿月俸	卅月俸	屬	屬	技手
足立恐三	富村爲政	近藤就運	林 利喜治	生咲政二郎	尾崎 勝	今田千柄	松田良知	阿形精一	河田小龍	兒島定七	徳田儀平	小澤鉦吉	小西得太郎



十九年十一月十五日	工事付屬	廿一年十月二日	二年	九月	立田茂平
十八年五月廿一日	工事付屬	十九年七月廿六日	一年三月月	八月	佐藤盛光
廿二年十一月三十日	庶務付屬	廿三年六月三日	八月月	九月	大角友信
廿年七月八日	工事付屬	廿三年一月廿三日	二年七月月	八月	前野龍一
十九年六月十六日	煉瓦製造場付屬	廿一年五月三十一日	二年	七月	蘇我壽
十五年八月三日	工事付屬	同年六月十九日	六年	八月	尾形銀之助
十九年十一月一日	庶務付屬	廿二年九月十一日	三年	八月	細川信賢
廿年十二月廿日	同上	同年二月十八日	一年二月月	七月	毛里保
十八年六月一日	工事付屬	廿三年六月三十一日	六年一月月	九月	內藤朝義
廿二年三月廿三日	庶務付屬	廿二年十二月十三日	九月月	七月	生熊省七
廿年一月四日	司計付屬	廿三年六月卅一日	四年六月月	八月	服部壽太郎
十九年十月七日	醫員	廿二年十二月廿六日	三年二月月	廿五月	河北柳三郎
十九年六月十六日	煉瓦製造場付屬	廿一年一月三十一日	一年七月月	廿五日	菊田宗太郎
同年七月十二日	工事付屬	同年三月三十日	一年八月月	廿日	長源三郎

同年六月十六日	煉瓦製造場付屬	廿年十月四日	一年四月月	十月	立田茂平
廿年五月十四日	同上	廿一年一月三十一日	九月月	十月	新谷繁太郎
同年三月十日	同上	同年八月六日	六月月	拾月	大森重五郎
同年五月二日	同上	同月七日	九月月	拾月	植村正太郎
十九年十一月一日	測量付屬	十九年十二月廿二日	一月月	拾月	石井一介
同年六月十六日	煉瓦製造場付屬	廿年四月廿一日	一年一月月	拾月	井上久吉
廿年四月四日	工事付屬	廿一年二月廿三日	同上	拾月	山上半也
同年五月十四日	煉瓦製造場付屬	同年一月十日	九月月	拾月	中原喜造
同年六月十五日	同上	廿二年四月三十日	二年	拾月	吉井達之亮
同年三月十二日	司計付屬	廿三年六月三十一日	三年四月月	拾月	高木二三郎
廿年十二月廿四日	煉瓦製造場付屬	廿一年一月三十一日	二月月	拾月	鈴木
同年三月十日	同上	廿年十月四日	八月月	九月	藤宮彌七
同年三月十六日	工事付屬	廿三年六月三十一日	三年四月月	九月	樋口謙
十九年十二月十四日	同上	廿三年五月廿三日	三年六月月	九月	淺野嘉一郎



廿二年三月十七日	同上	廿二年二月廿一日	二年	九月	井戸本仁兵衛
同月十八日	木材工場付	廿三年六月三十一日	三年四月	拾月	大島鶴之助
廿一年三月十六日	煉瓦製造場付	廿二年四月三十日	二年二月	拾月	阿川忠貞
十八年四月十五日	批水看測	廿三年六月三十一日	五年三月	九月	矢島治道
十九年九月廿七日	庶務付屬	廿三年六月三十一日	三年八月	九月	竹迫雲八
十八年九月十六日	工事付屬	廿三年四月三十日	四年八月	九月	竹乾正雄
同上	火藥看護	同一年三月三十日	四年七月	七月	田中義信
廿年十月廿二日	工事付屬	廿一年六月廿二日	九年	六月	中島廣
廿年十一月廿九日	火藥看護	廿一年五月七日	七月	六月	大島給興
同年年同月三十日	同上	同年年八月三十日	十月	六月	德平虎一郎
同年年同月三十日	同上	廿三年三月三十一日	二年四月	六月	近藤幸馬
同年年同月七日	工事付屬	同年年四月十六日	二年五月	八月	和田彌藏
同月十二日	火藥看護	廿二年八月廿七日	一年九月	六月	岡本楠太郎
同月廿二日	同上	廿一年八月卅一日	九月	六月	饗庭正利

同上	同上	同年年七月三十日	八月	六月	本多喜兵衛
同上	同上	同年年八月三十日	九月	六月	今住喜輔
同月廿九日	同上	同年年十二月十五日	一年一月	六月	竹田桃吉
同月三十日	工事付屬	同年年四月十七日	五月	六月	増戸勉一郎
廿一年一月二十日	工事付屬	同年年七月三十日	七月	六月	佐々長保
同年年二月十四日	火藥看護	同年年五月十一日	四月	六月	松下熊太郎
廿一年三月二日	同上	廿一年八月三十一日	六月	六月	森一夫
同年年五月廿六日	木材工場付	廿三年六月三十一日	二年二月	七月	西村真助
廿一年三月十一日	同上	廿一年一月三十一日	十一月	七月	渡邊武
廿一年十二月廿日	火藥看護	廿三年四月三十日	一年五月	七月	大塚博吉
廿二年九月二日	同上	同年年六月六日	十月	六月	近藤清次郎
廿一年五月一日	煉瓦製造場付	廿三年六月三十一日	二年二月	六月	安井常次郎
廿一年十一月廿六日	工事付屬	廿一年六月十三日	八月	六月	田尻隆藏
十九年七月廿三日	庶務付屬	十九年九月十一日	三月	六月	糺田卯吉



廿一年三月七日	工事付屬	廿一年六月九日	四ヶ月	廿日	岡本與助
同年五月一日	煉瓦製造場付屬	廿二年一月三日	九ヶ月	廿日	高橋吉平
同上	同上	廿一年十月三日	六ヶ月	廿日	中野直信
同上	同上	廿二年一月卅一日	九ヶ月	廿日	佐藤繁太郎
廿一年七月二日	工事付屬	廿一年十一月廿六日	五ヶ月	八月	小手川松太郎
同年同月八日	同上	廿一年七月三日	一年一ヶ月	八月	江左幸次郎
同年五月十六日	同上	廿二年一月廿八日	一年九ヶ月	八月	山崎米三郎
廿一年三月十三日	同上	廿三年一月廿二日	一年十一月	八月	岡本昭光
十九年十二月十六日	煉瓦製造場付屬	廿二年十二月廿六日	三年一ヶ月	七月	上原與七郎
同年十月廿八日	工事付屬	廿一年十一月十六日	二年二ヶ月	八月	貴志種楠
廿一年二月八日	同上	廿三年二月十七日	三年一ヶ月	七月	野田鼎造
同年十一月廿九日	同上	廿一年六月十日	八月	八月	湯川伊三郎
同年一月四日	同上	廿二年四月廿七日	一年四ヶ月	八月	森本仁平
廿一年十一月廿六日	同上	廿三年二月四日	同上	八月	根村忠紀

廿一年十二月十四日	測量付屬	廿三年六月三十日	二年七ヶ月	九月	漢城基命
十八年十月廿日	工事付屬	廿三年六月三十日	一年九ヶ月	七月	榎由九
十九年十一月一日	量水看測	廿三年六月卅一日	三年八ヶ月	七月	矢部源次郎
廿一年四月廿七日	工事付屬	廿三年五月十四日	一ヶ月	七月	福田任
同年七月廿七日	量水看測	廿三年六月卅一日	四年一ヶ月	七月	足利三郎
同年五月二日	工事付屬	廿一年一月三日	九ヶ月	七月	汲田宗真
同年三月十日	煉瓦製造場付屬	同上	十一月	七月	福田孝一
同年九月五日	工事付屬	廿一年七月三日	十一月	七月	淺沼湄
同年十月廿四日	同上	廿二年十一月十五日	二年二ヶ月	七月	高橋光興
廿一年二月六日	木材工場付屬	廿一年二月十日	五日	七月	松浪康太郎
同年三月廿三日	庶務付屬	廿三年六月卅一日	二年四ヶ月	七月	今井勝治
廿一年十一月廿九日	工事付屬	廿三年四月三十日	二年六ヶ月	八月	平勢秀堅
同上	同上	同月十六日	同上	八月	野村武次郎
同年三月十日	煉瓦製造場付屬	廿一年七月廿六日	五ヶ月	八月	牧俊忠



議員

十八年九月十六日	火藥番人	廿年十一月三十日	二年三月月	六月四日	中村茂孝
同上	火藥番人	同日	同上	六月四日	三崎顯忠
廿一年八月一日	煉瓦製造場 付屬	廿二年八月三十一日	一年一ヶ月	廿日	竹谷宗十郎
十九年十月三十日	工事付屬	廿年二月廿五日	五ヶ月	十八日	安田貞風
廿年三月七日	同上	同年六月三十日	四ヶ月	五月四日	内海忠造

議員

明治十六年疏水事業ヲ議定スル爲メ上下京聯合區會ヲ組織シ上下兩京區内各組一名ヲ撰出シ上下區三十三名下京區三十二名總員六十五名トナセシカ同十七年五月ニ至テ太政官第十四號達區町村會法及同年六月本府甲第五十七號達同會規則ニ基キ上下京區ヲ各十名トナス而シテ明治廿一年六月府令第七十二號ヲ以テ愛宕郡南禪寺外十二箇村ヲ京都市街ニ編入シ上京區ニ一組下京區ニ一組ヲ増セ

上下兩京聯合區會  
上京區議員

シヲ以テ兩區ノ議員各一名ヲ増セリ又廿二年七月ニ至テ市制施行ノ爲メ更ラニ市會議員四十二名ヲ撰擧ス今沿革ヲ明ニスル爲メ左ニ列記ス

上下兩京聯合區會  
上京區議員

就 職	退 職	年 月	町 名	姓 名
十六年十一月現在	十七年二月辭職	四ヶ月	燒ヶ榎木町	小寺定次郎
同	同	同	元妙蓮寺町	中孫三郎
同	同	同	二條西洞院町	八木伊之助
同	十七年三月滿期	五ヶ月	内藤町	堀口清次郎
同	同	同	小川町	西堀徳二郎
同	同	同	榎木町	八木清助
同	十七年四月戶長 拜命	六ヶ月	駒之町	河村信正























常務員

常務員

沿革 明治十八年三月六日甲第二十九號布達ヲ以テ常務員ノ制ヲ置キ同月十日議員中ヨリ抽籤ヲ以テ從務順番ヲ定メ同月十三日ヨリ就職シ同四月六日從務心得ヲ定メ同十九年三月廿二日現場出務員一名ヲ改メテ三名トナシ同年六月二日甲第八十四號ヲ以テ常務員規則ヲ改正シ廿二年六月市制實施ニ付同年之ヲ廢シ土木常設委員四名ヲ置キ二名ハ議員中ヨリ二名ハ公民中ヨリ撰舉ス

常務員規則

常務員規則

一 疏水事件ニ限り上下京聯合區會ニ常務員七名ヲ置キ一箇年交代ヲ以テ現場へ出務スルモノトス  
但聯合區會議員ノ投票ヲ以テ第三回ノ出務順番ヲ定

一 其總員一回ヲ了ル迄ハ前番者ヲ再投票スルヲ得ス  
一 常務員ハ聯合區會評決ニ係ル事件施行上ニ對シ其代表ヲナスノ任ヲ有スルモノトス  
一 常務員ハ月手當貳拾五圓巡回旅費一日七拾錢滞在日當三拾五錢トシ并ニ事務所ノ費用ハ聯合區費ヨリ支給ス  
明治十八年三月六日 京都府知事北垣國道

常務員從務心得

常務員從務心得

一出務時間ハ當府廳ノ例ニ依ル  
二 出勤簿ヲ設ケ之レニ押印ノ上事務ニ從フモノトス  
三 日誌ヲ製シ諸事ヲ登記スルモノトス  
四 計算上ノ事等ハ別ニ記帳スルモノトス  
五 日々ノ取扱濟ニ係ルモノハ類ヲ分テ部ヲ別ニシテ編輯スルモノトス



六事務所ヨリ諮詢スル所ノ應答ハ明細ニ登録シ置クヘシ  
 七工事現場へ出務スルモノハ日々工事ノ進功表ハ素ヨリ  
 其景況ヲ記録シ置クヘシ  
 八事務所詰工事現場出張員共疏水ニ係ル當初ヨリノ順序  
 記事等總テ整備シ置クヲ要ス

常務員交代年月

第一期	自十八年三月 至同年六月	大澤善助	下間庄右衛門
第二期	自十八年七月 至同年九月	畑道名	井上重三郎
第三期	自十八年十月 至同年十二月	東枝吉兵衛	莊林維英
		中村榮助	大澤善助
		古川爲三郎	川端庄作
		栗山敬親	
		木村與三郎	

朝尾春直	富田半兵衛	第四期	自十九年一月 至同年三月	高木文平	古川爲三郎
		川端庄作		福住源太郎	木村與三郎
		栗山敬親		莊林維英	古川吉兵衛
		第五期	自十九年四月 至同年六月	畑道名	東枝吉兵衛
		田中善右衛門		川端庄作	下間庄右衛門
		河村清七		木村與三郎	朝尾春直
		第六期	自十九年七月 至同年六月	東枝吉兵衛	中村榮助
		大澤善助		古川爲三郎	畑道名
		富田半兵衛		中村榮助	退職 兒島定七
		第七期	自二十年七月 至廿一年六月	古川爲三郎	畑道名
		河野通經			



六事務所ヨリ諮詢スル所ノ應答ハ明細ニ登録シ置クヘシ  
 七工事現場へ出務スルモノハ日々工事ノ進功表ハ素ヨリ  
 其景況ヲ記録シ置クヘシ  
 八事務所詰工事現場出張員共疏水ニ係ル當初ヨリノ順序  
 記事等總テ整備シ置クヲ要ス

常務員交代年月

第一期 自十八年三月 至同年六月	大澤善助	下間庄右衛門
第二期 自十八年七月 至同年九月	畑道名	井上重三郎
第三期 自十八年十月 至同年十二月	中村榮助	大澤善助

栗山敬親

古川爲三郎

川端庄作

木村與三郎

第二期  
自十八年七月  
至同年九月

畑道名

井上重三郎

河野通經

東枝吉兵衛

莊林維英

河村清七

中村榮助

大澤善助

朝尾春直

古川吉兵衛

下間庄右衛門

富田半兵衛

第四期  
自十九年一月  
至同年三月

高木文平

古川爲三郎

川端庄作

福住源太郎

木村與三郎

栗山敬親

第五期  
自十九年四月  
至同年六月

莊林維英

古川吉兵衛

田中善右衛門

畑道名

東枝吉兵衛

河村清七

第六期  
自十九年七月  
至同年九月

川端庄作

下間庄右衛門

大澤善助

木村與三郎

朝尾春直

富田半兵衛

第七期  
自二十年六月  
至同年七月

東枝吉兵衛

朝尾春直

河野通經

中村榮助

退職 兒島定七

畑道名



河村 清 七

栗山 敬 親

二月馬淵善兵衛

第八期 自廿一年七月  
至廿二年六月

朝尾 春 直

田中善右衛門

東枝吉兵衛

十月中村榮助

堤 彌兵衛

熊澤 直行

大澤 善 助

十一月木村與三郎

土木常設委員

抑モ本事業管理ノ事タル起工ノ當初上下京西區長ヨリ府知事ニ請願シテ府廳ニ於テ施行シ來リシモ廿二年七月以後市制實施ノ爲メ從來ノ規則ヲ廢シ新ニ組織セサルヲ得ス然レ此ノ市制タルヤ特別市制ニシテ市長ハ即チ府知事市吏員ハ則チ府ノ屬官ナルヲ以テ假令從來ノ組織ヲ變更スルモ其ノ名其ノ實ト伴ハサルノミナラス竣功期モ僅ク數月ノ後ニ在レハ組織上ニ於テ著シク變更セス單ニ市參事會ヨリ分掌者ヲ定メ又土木常設委員ヲ置キ市會及公

民中ヨリ之ヲ撰舉シ以テ大小巨細ノ事件ヲ協議施行シ遂ニ全局ヲ結ヒ廿三年六月ニ至リ疏水事務所廢止ノ日ト與ニ之ヲ廢止ス

明治廿二年六月廿一日市會ノ決議ヲ以テ定ムル所ノ市條例第二號ハ土木教育ノ二事務ニ相通スルモノナレトモ教育ニハ關係ヲ有セサルヲ以テ之ヲ省キ土木ニ涉ルモノ、ミナ掲出ス

第一條 制第六十一條ニヨリ市ニ常設委員十二名ヲ置ク

第二條 常設委員ノ分掌スル事務左ノ如シ

一 土木事務

第三條 土木委員ハ七名トシ市參事會中ヨリ三名市會議員中ヨリ二名公民中ヨリ二名ヲ以テ組織ス



第五條 委員ノ任期ハ二ケ年トス

但土木委員ハ疏水工事竣工ニ至リテ廢スルモノトス

第六條 土木委員ハ疏水工事ニ關與スルモノトシ其概目左ノ如シ

一 市會議決ノ旨趣ニヨリ市參事會ノ諮問ニ係ル工事目論見並經費ヲ調査答議スル事

二 工事施行ノ場所ヲ巡回監査スル事

三 翌年度ニ施行スヘキ工事ノ箇所費額又ハ議案ヲ調査スル事

四 臨時急施ヲ要シ會議ヲ開クヘキ場合全上ノ事

五 事務取扱ニ關スル諸記録調製ノ事

第八條 土木委員ハ報酬トシテ一人ニ付年金百五拾圓ヲ給與ス

大阪府水防事件

廿二年七月二日土木常設委員ヲ撰擧スルノ如シ

朝尾春直 東枝吉兵衛 大澤善助

高木文平 坂本則美 堤彌兵衛

下間庄右衛門 熊澤直行 玉水新太郎

大阪府水防事件

廿二年三月廿九日上下京聯合區會ヲ開ク出席議員二十名大阪府下水防工費ノ件ヲ議ス議事ニ先々番外疏水事務所理事阪本則美ハ本案ヲ以テ付議スル處ノ大阪府水害豫防工費ハ議案中ニモ記載スル如ク去明治十八年聯合區會ノ評決ニ依リ其筋へ上申ニ及ヒ置タルモノナリシカ今回該工費中惡水吐口水害豫防工費ヲ本年冬期ニ於テ大阪府ニ交付スヘキ旨ヲ内務大臣ヨリ訓令セラレタルヲ以テ茲ニ發案セシモノニシテ十八年ノ本會評決ハ我疏水工事落成



通水ノ后果シテ水害アリト認メタル場合ニ於テ相當ノ費額ヲ交付スヘキ次第ナリシカ今該訓令ヲ以テ本年冬期ニ於テ交付セシメラル、所以ノモノハ該工事ハ所謂豫防工事ナルモノニ付果シテ水害ヲ蒙ルモノトスレハ其被害以前ニ於テ施行セサルヲ得サルモノナリ而シテ我疏水工事ノ成功期ハ本年末ニアリ其通水期ハ明年春夏ノ交ニアルヘシ而シテ此豫防工事ヲ施行スルニハ出水ノ少キ季節ニ於テセサルヲ得ス即チ本年ノ冬季ヲ以テ施行スヘキニ付本工費ヲ該時期迄ニ交付セシメラル、モノナリ以上ハ該工費送付ノ期ヲ本年ノ冬期ト定メラレタル所以ナリ是ヨリ更ニ惡水吐口ニ水害ヲ蒙ル所以及該工事ノ施設ヲ必要トスル所以ノ大畧ヲ述ヘン

抑モ此水害有無多少ハ本工事施行以來ノ一問題ナリシカ

今回内務省ニ於テハ各土木監督署巡視長會議ノ論究ニ依リ内務大臣ニ於テ是ヲ決定セラレタルモノナリ今其通水以前ト通水以后ト及ヒ琵琶湖面ト淀川筋水面トノ關係ヲ概言スレハ此流域ノ水源即チ琵琶湖ニ流入スヘキ總テノ雨量ハ通水以后ト雖モ毫モ通水前ニ異ナラサルヘキヲ以テ通水ノ爲メ一時ノ變動即チ琵琶湖面ノ低下其極度ニ達スル迄ノ時間ヲ經過スル以后ニ於テハ淀川筋ニ受クル水量ハ復前日ト異ナラサルモノニシテ琵琶湖面水位ハ従前ニ對シ幾分ノ低下ヲ來スヘキモノナリ故チ以テ右ノ如ク琵琶湖面ノ水位カ低下ノ極度ニ達シタル以后ニ於テハ我疏水新河ハ間斷ナク一秒時間三百立方尺ノ水量ヲ疏通スルニ大阪府下惡水吐口ニ對シテ障礙ヲ與フヘキモノニ非ス唯通水后琵琶湖面ノ水位カ其低下ノ極度ニ達スル迄



ノ間ハ淀川筋ニ受クル水量ハ從前ニ對シ幾分ノ多量ヲ加  
 へ其水位ニ幾分ノ上昇ヲ來スヘキモノト言ハサルヲ得ス  
 斯ク淀川筋ノ水位カ幾分タリトモ上昇スルカ爲メニハ從  
 テ惡水吐口ニ對シ亦幾分ノ障礙ヲ來スヘシ此障礙ヲ避シ  
 カ爲メニハ惡水吐口ノ水流ト本流トヲ隔離スヘキ堤防ヲ  
 延長セサルヲ得ス是レ此豫防工費ノ支出ヲ要スル所以ノ  
 要概ナリ右ノ理由ナルヲ以テ本案ヲ發付シタルモノナレ  
 ハ各員ニ於テモ宜ク詳論審議シテ本案ヲ可決セラルヘキ  
 ナ信スト雖モ尙發案者ノ精神ヲ述ヘテ本會ニ冀望スル所  
 ノモノハ各員ニ於テモ固ヨリ了知セラル、如ク大阪府民  
 ニ於テハ非常ニ此水害ヲ憂慮シ大阪府廳ニ於テモ爲メニ  
 深ク心配スル處ノモノナリ抑モ本府ト大阪滋賀ノ如キハ  
 商工業其外凡百ノ事ニ於テモ其關係極メテ親密ニシテ尤

モ互ニ友愛ノ交際ヲ取ルヘキ地方ナリ依テ本案ヲ議スル  
 ニ當ツテ各員宜ク茲ニ注意セラレテ極メテ穩當平和ナル  
 結局ヲ見ントナ切望ス是レ當府知事カ疏水工事起工以來  
 尤モ深ク配慮スル所ナリ然リト雖モ道理ナキ金額ヲ支出  
 シテ大阪府民ニ對スル友愛ノ意ヲ表セントスルモノニハ  
 非ス全ク前述セシ内務大臣訓令ノ如ク素ヨリ是ヲ交付ス  
 ヘキノ理由アルモノナルヲ以テ宜ク本府知事カ切望スル  
 如ク極メテ穩當平和ナル決議ヲ得ルニ至ラントナ諸君ニ  
 望ム所ナリ次テ議員質疑番外ノ答辨交互十數回原案金額  
 ナ減シ國庫ノ補助ニ仰クトニ修正セント云説ニ滿場ノ贊  
 成ヲ得テ可決シ之ニ副フヘキ評定理由上申書ノ文案ハ常  
 務員ニ一任セント云説ニ全會一致ニ議定セリ

原案



去明治十八年聯合區會ノ評決ニヨリ其筋へ上申ニ及置タル大阪府下水防工費ノ儀今般其筋ノ訓令ニ依リ該工費ノ内惡水吐口改良ニ係ル分金七萬四千九百三拾九圓ハ本年冬季ニ於テ之ヲ該府ニ交付スルモノトス

修正案

琵琶湖疏水工事ノ爲メ大阪府下ニ要スル水防工費ノ内惡水吐口改良ニ係ル金七萬四千九百三拾九圓ヲ減少シテ金三萬圓トナシ本金額ハ國庫補助ヲ仰クモノトス

評定理由上申書

本案水防工費ニ對シテハ曩ニ本會ハ疏水工事竣成ノ後若シ水防工事ヲ施スヲ必要ト認ムル場合ニ至リ工費ヲ負擔ス可シト決議シタリ然ルニ唯々學理上ノ推究ヲ以テ竣成ヲ告ケサル今日ニ於テ該工事ヲ施行セントスルハ實ニ本

會ノ敬服シ能ハサルモノナレハ必ス疏通後水理ノ變動ヲ實驗シ得ル迄本案ヲ否決セント欲スレトモ其筋ノ訓令ニヨリ此ノ案ヲ付議セラレシモノナレハ若シ之ヲ否決セン乎一ニハ訓令ニ戻リ二ニハ大阪府民ノ情誼ヲ破ルノ嫌ナキ能ハス故ニ曩ノ決議ニモ拘ハラヌ本會ノ茲ニ評決スル理由ヲ開陳ス抑モ本案豫算ハ大阪府下ニ於テ各所ノ惡水吐口ヲ隔流スヘキ堤防長凡二百間ヲ増築セントスル經費ニシテ此計畫ノ起因ヲ推究スレハ滋賀縣ニ於テ琵琶湖水ノ放流ヲ制止センタメ勢田川ニ於テ堰止工事ヲ施シ湖水洪水ノ時ニ際シテハ其堰止ノ扉板ヲ撤去セハ其都度流水ノ量幾分ヲ増スノ關係ヲ永年ニ貽スヲ以テ此水害ヲ防シニハ凡百間ナル隔流堤防ヲ増築セサルヘカラサルト又此堤防ニ向テハ將來修繕ヲ要スヘキハ普通ノ道理アルモノ



トナセ其修繕費ハ明掲セスシテ之ニ換ルニ堤防ノ距離  
 ナ延長シ凡二百間トナセシニ出タルモノナルヲ信スルナ  
 リ然リト雖モ今ヤ滋賀縣下ニ於テハ勢田川上流ニ架設シ  
 タル鐵道橋臺十八基ノ如キハ正ニ該縣ニ於テ施サントス  
 ル堰止ト均シキ効力アルモノト聞ケリ果シテ然ラハ此橋  
 臺ハ扉板ヲ開閉セサル堰止ナルヲ以テ考フレハ一時流出  
 水量増加ノ爲メ大阪府下ニ影響セントスル時間ハ單ニ三  
 百個ノ水量ヲ疏通シ湖面低下ノ極度ニ達スル僅々數月間  
 ノ要用ニ止リテ永遠之ヲ存スヘキモノニアラス果シテ然  
 ラハ該堤防ハ將來修繕費ヲ要スヘキ道理アルヲ認ムル能  
 ハサルナリ故ニ曩ニ設計セラレシ修繕費ニ代用セル百間  
 分ヲ除キ要用ナル部分ノミヲ施ス目的ヲ以テ此ノ工費ヲ  
 半減シ且原案豫算ハ明治十七年ニ於テ設計セラレシモノ

ナレハ今日ニ比スレハ物價ノ低落ハ既ニ的然タル實跡ア  
 レハ又其二割ヲ減シ之ヲ三萬圓トナセシナリ抑モ疏水工  
 事タル特別ノ恩賜金及國庫補助金等ノ餘澤ニ出タルモ該  
 金ノ如キハ業ニ已ニ消費シ尽シ本年ニ於テ尙徵收セサル  
 ナ得サルモノ實ニ三拾餘萬圓ノ多キニ居レリ困難モ亦甚  
 シキノ秋ト謂ツ可シ且又本件工費ノ性質タル本年ニ於テ  
 ハ其幾部分ノミヲ施功シ他ハ之ヲ明年ニ譲リ得ヘキモノ  
 ニアラス又其費額ヲ節減センカ爲メ施工ノ方法ヲ變更ス  
 ヘキノ決議ヲナシ得ヘキモノニモアラス内務大臣ノ訓令  
 ニヨリ時價ノ變動ニヨリ訂正スルト滋賀縣カ堰止工事ヲ  
 施サハルカ爲メ元二百間トセル堤防ヲ百間トスルノ外ニ  
 於テハ全額三萬圓ハ一頓ニ之ヲ支出セサルヲ得サルモノ  
 ニシテ其負擔ニ堪サル亦實ニ止ムヲ得サルナリ然リト雖



二百九十二  
モ元來一地方ノ繁榮ヲ企テ邦國ノ公益ヲ圖ル爲メ起工セ  
シ事業ナルモ萬々一流末ニ障害ヲ波及セシムル如キ不幸  
アルキハ德義上之ヲ除却スルノ策ハ飽マテ講究セサルヘ  
カラサルナリ況ンヤ大阪府ノ如キハ我カ府ト接續友誼ノ  
關係殊ニ親密ナルヲ以テ若シ本事業ノ爲メ大阪府民ニ不  
利ヲ與フル如キコアルキハ實ニ我區民ノ憂慮スル所ナリ  
是ヲ以テ此水防工費ノ如キハ直ニ交付センカ區民負擔ノ  
輕カラサルヲ恐ル、ナリ然ラハ即チ之ヲ如何セン是ノ時  
ニ當テハ一種ノ方案アリ即チ大阪府下各所ノ惡水吐口ニ  
障害ヲ與ヘサル様湖面低下ノ極度ニ相當スル水量ヲ疏通  
シテ天候ノ如何ト湖面水位ノ低減トヲ熟察シ一時水ヲ流  
過セシメス月ヲ積ミ日ヲ重テ流末ナル惡水吐口ニ影響ヲ  
與ヘサル水量節減疏通方法はナリ然リト雖モ事若シ茲ニ

出ナハ優渥ナル恩賜金及補助ノ國庫金等ヲ以テ經營セシ  
一大事業ニシテ工事竣功ノ日ニ至ラハ直ニ水力ノ全體ヲ  
使用シ或ハ水運ノ便ヲ得ントスル目的モ爲メニ其幾分ヲ  
毀傷セサルヲ得ス實ニ進退維谷リ痛歎ニ堪ヘサルナリ是  
ヲ以テ切ニ兩區長ニ冀望スル者事業ノ首尾ヲ全カラシム  
ル爲メ府知事閣下ニ上申セラレ今般大阪府ニ交付スヘキ  
金三萬圓ノ補助ヲ其筋ニ申請シ本工事曩ノ補助金拾五萬  
圓ヲ拾八萬圓トセラレナハ區民ノ幸福何ソ之ニ加ヘン然  
リト雖モ國庫ノ補助豫メ期スヘカラサレハ萬一區民ノ熱  
望ヲ採納セラレサルモ唇齒ヲ俱ニスル大阪府ニ向テハ德  
義ヲ破ルコト能ハサルナリ此ノ如ク一方ニ向テハ特ニ重  
スヘキ義務アリ德義アルモ又一方ニ向テハ多額ノ經費ヲ  
支出スルノ途アラサルヲ以テ國庫ノ補助ナキトキハ中途



ニシテ本事業ノ目的ヲ傷ツク之ヲ大ニスレハ國益ヲ損シ  
之ヲ小ニスレハ一地方ノ不幸ヲ招クニ至ル己ムヲ得ス前  
陳ノ如キ一種ノ方案ヲ取ラサルヲ得ス請フ兩區長本會ノ  
事情ヲ明察セラレヨ今本會ヲ議決スルニ當リ評定ノ理由  
上申仕候也

上下京聯合區會議員總代

明治廿二年三月三十日

田中善右衛門

熊澤直行

東枝吉兵衛

大澤善助

木村與三郎

堤彌兵衛

朝尾春直

上京區長杉浦利貞殿  
下京區長竹村藤兵衛殿

疏第二號

當府琵琶湖疏水工事施工ニ關シ大阪府下ニ要スル水害豫  
防工費中惡水吐口改良工費ハ本年冬期ニ於テ該府ニ交付  
スヘキ旨本年二月十六日付訓第九三號ヲ以テ御訓令相成  
敬承致候然ルニ其節モ上申致候通該件ニ關シテハ其執行  
上上下京聯合區會ニ評決ヲ要スヘキ義ニ付右御訓令ノ旨  
ニヨリ本年三月廿九日別紙甲印ノ通議案下付開會候處乙  
印ノ通理由書ヲ具シ評決致候右評決ハ其主旨トスル處時  
價ノ差ニ依リ最初設計ノ金高二割ヲ減シタルト且當初  
御省田邊技師ノ設計ニハ該惡水吐口隔流堤防ハ凡百間許  
ヲ増築シテ足ルヘキヲ將來ニ要スヘキ修繕費ヲ換算シテ



更ニ之ヲ倍シ二百間トナシタルモノナリシカ今回御省ニ於テ御査定ノ趣旨ニヨレハ該工事ハ將來永遠ノ關係ヲ有スルモノニアラスシテ通水后湖水低下ノ極度ニ達スルニ到ル間ノ必要ニ止ルモノナルヲ以テ前記將來ノ修繕費ヲ換算シタル分即チ其延長ノ半分ハ必要ナキモノトシテ之ヲ減却シタルトニ在ルモノニシテ猶且民力ノ難堪ヲ以テ國庫金ノ下付ヲ請ント望ムモノニ有之且別紙理由書ニ陳ル處ノ如ク到底豫防工費支辨ノ途ナキ場合ニ於テハ万々不本意ナカラ一時疏通ノ計畫ヲ變シ漸次流過セシメ流末地方へ毫モ損害ヲ與へサル様可致トノ旨趣ニ有之是レ亦甚遺憾ノ儀ト存候へトモ府民ノ企望實ニ難制止場合ニ付特別ノ御詮議ヲ以テ金三萬圓御下付相成候様致度此段上申候也

明治廿二年六月四日

京都府知事北垣國道

内務大臣伯爵松方正義殿

追テ價格訂正ノ儀ハ兼テ御訓令ノ通大阪府へ協議可致見込ニ有之候得共今日ニ於テハ未タ協議ノ場合ニ至ラズ候間當府區會ノ見込ヲ仮定候義ニ有之候  
内務省指令甲第一二〇號

京都府

明治廿二年六月四日疏第二號ヲ以テ上申琵琶湖疏水々害豫防工費下付ノ件難聞届本年二月第九三號訓令ノ通施行セサルヲ得サル儀ト心得ヘシ

明治廿二年六月廿八日 内務大臣伯爵松方正義印

二十二年七月十九日京都市會ヲ開キ大阪府下水防工費ノ件ヲ議ス出席議員三十五名第一次會ニ於テハ徐々ニ通水



スレハ其害ヲ及サス依テ廢案トセント云ヒ本會ノ懇願ヲ許可セラレサル上ハ六萬千三百拾四圓三拾錢ハ姑ク支出スルモノト決定シ置キ漸次ニ交付スルモノトセント云ヒ又委員ヲ設ケテ調査スルト云ヒシモ共ニ贊成者ナク原案ニ決シ第二次會ハ一ノ異議ナク第三次會ニハ本案ニ但書ヲ付シ市民ノ負擔シ得ラル、タケノ出金ヲナシ其他ハ政府ノ補助ヲ仰シノ明文ヲ載セント云ヒ又三少年ニ割當テ交付セント云ヒ金額ヲ三萬圓ニ減セント云フ三説アレトモ同意者ナクシテ議題トナラス第二次會決議ノ如ク確定セリ

原案 第十八號

本年三月上下京區聯合區會ニ於テ評定セル琵琶湖疏水工事ニ關シ大阪府下ニ要スル豫防工費中惡水吐口改修

工費金七萬四千九百三拾九圓ヲ三萬圓トシ國庫ノ補助ヲ仰シ儀ハ採用不相成ニ付更ニ大阪府ニ結約シ時價ニ基キ費額ヲ訂正シテ六萬千三百拾四圓三拾錢トシ本年冬期ニ於テ之ヲ該府ニ交付スルモノトス

既ニ原案ニ確定セシヲ以テ本會ヨリ更ニ府知事ニ向テ建議セントテ文案ヲ提出シ之カ潤文進達ヲ市參事會土木委員ニ委托ス

建議

琵琶湖疏水ノ事業ハ我京都繁榮ヲ永遠ニ維持シ民福ヲ増進シ得ルノ大業ニシテ其經費モ亦百廿五萬餘圓ヲ要シ固ヨリ我京都人民ノ支出シ得ヘカラサル巨額ナレトモ辱クモ 天皇陛下ヨリ下賜ナリタル産業基金ハ元利ヲ積ンテ三拾余萬圓トナリ其上國庫ヨリ拾五萬圓府廳ヨリ拾



五萬圓ノ補助ヲ受ケ併セテ工費半額以上ノ基本ヲ得タルハ直ニ之カ起工ヲ爲シ茲ニ五箇年間既ニ支出セシ金額ハ殆ント九拾餘萬圓ニ達シ尙支出ヲ要スルモノ三拾餘萬圓殊ニ本年二拾五萬圓余ノ巨額ヲ支出セサルヘカラサルヲ以テ人民ハ之カ負擔ニ堪ヘス拾五萬圓ノ市債ヲ爲シテ本年ノ經費ヲ支ヘリ斯ル場合ナルカ故ニ本年三月付議セラレタル大阪府下水防工費七萬余圓ハ到底負擔ニ堪ヘサルニ依リ之カ補助ヲ國庫ニ仰キタルモ之ヲ聽届ラレス又漸次疏通ノ方モ許可セラレス大阪府ト協議ノ上六萬千余圓ヲ支出セラル可ラサルトニ確定セリ然モ此水防工費支出ノ下タルヤ吾市民中物議少カラサル所アレトモ要スルニ京阪両市唇齒ノ間ニ於テ之ヲ争フカ如キ事アルハ大ニ採ラサル所ナレハ市會ハ單ニ政府ノ訓令ヲ奉シ之ヲ負擔スル

トニ決セリ然リト雖モ前陳ノ如キ財政上困難ノ時ニ際シ此ノ上六萬余圓ノ水防工費ヲ負擔スルト能ハス不得已民力恢復此工費ヲ支出シ得ルノキ迄疏通ノ期ヲ延ハスノ外策ヲキチ信スト雖モ漸次疏通ノ方スラ尙國益ヲ害スルモノト認メ之ヲ許可セラレサルニ於テハ況ンヤ際限ナキ民力挽回ノ期ヲ待ツ如キハ我人民ノ思フヘカラス言フヘカラサルトニシテ政府ニ於テハ尤モ許可セラレサルモノナラン然レ一方ニハ拾有余萬圓ノ徵收金アリ又一方ニハ拾五萬圓ノ負債アリ其上六萬余圓ノ水防費アリテ到底負擔スヘカラサルトハ實ニ不得止シテ此策ヲ採ルノ一アルノミ又今別ニ五萬圓ノ金ヲ得ルキハ如何トシテ明年工事竣功ノト共ニ疏通ノ式ヲ行ヒ運輸ノ便水力ノ利用共ニ其目的ヲ達スルトヲ得レトモ如何セン未タ其途ヲ得サルニ



困ム閣下宜シク前陳ノ事情ヲ憐察シ前ニ國庫ヨリ補助セラレタル拾五萬圓ヲ貳拾萬圓ニ改メ更ニ五萬圓下賜相成様政府ニ請願被成下度全會ノ意見ヲ以テ此段建議仕候也

明治廿二年七月十九日

市會議長中村榮助

京都府知事北垣國道殿

疏第三號

當府琵琶湖疏水工事ニ關シ大阪府下ニ要スル豫防工費中惡水吐口改修ニ係ル工費ノ義ニ付本年六月四日疏第二號ヲ以テ當上下京聯合區會ノ評決ニ依リ工費節減及國庫金補助ノ儀上申及置候處客月廿八日付甲第一二零號ヲ以テ右上申ノ趣難聞屆本年二月九三號訓令ノ通大阪府ニ交付セサルヲ得サル旨御指令相成依テ前御訓令ノ旨ニヨリ大阪府并ニ御省第四土木監督署へ協議ヲ遂ク時價ニ基キ右

費額金七萬四千九百三拾九圓ヲ訂正シテ六萬千三百拾四圓三拾錢トシ之ヲ以テ京都市參事會ニ於テ別紙ノ通本日當京都市會へ發案候處本件ニ對シテ曩ニ上下京聯合區會評決ノ旨趣ノ如ク疏水工費ノ負擔既ニ困難ノ域ニ達セリ然ルニ更ニ之ヲ支出スルハ市民ノ能ク堪フル所ニ非ラス徐々流出ノ方法ヲ執ル可キノ意見ハ素ニリ前日ニ異ナラスト雖モ然レモ再度ノ訓令遵奉セサルヘカラサルヲ覺悟シ即日原案ニ可決シ其旨申出候而シテ疏水工事費歳々多額ニシテ實ニ民力ノ堪フ可カラサルノ場合ニ遭遇シ曩ニ特殊ノ御詮議ニ出テ、疏水工費百二拾五萬圓餘ニ對シ補助セラレタル國庫金拾五萬圓ヲ貳拾萬圓ニ増助セラレ今度五萬圓追補ノ稟請ヲ建議致シ候當市民疏水工費負擔困難ノ儀ハ前回既ニ上申及候儀ニシテ今更喋々ヲ待タス候



得共疏水本工費ノ負擔尙今后支出ヲ要スルモノ實ニ三拾餘萬圓ノ多キニ居レリ之レ來年度ノ初期迄ニ支出スヘキモノニシテ加之大阪府へ交付ノ六萬餘圓アリ之レカ徵收ハ最困難ノ事ニ候抑モ疏水工事ニ對シテハ既ニ特殊ノ御補助アリシ次第ニハ候得共何分總費巨額ナルヲ以テ今ヤ市民ノ負擔其極ニ達シ市債ヲ募集スルノ外無之場合ニ候條宜ク右事請御洞察越格ノ御詮議ヲ以テ囊ニ疏水工費總額ニ對シ下付セラレタル國庫補助金拾五萬圓ヲ貳拾萬圓トシ更ニ五萬圓ノ補助金下付相成度此段稟請候也

明治廿二年七月十九日

京都府知事北垣國道

內務大臣伯爵松方正義殿

甲第一三四號

京都府

本年七月十九日疏第三號ヲ以テ稟請琵琶湖疏水工事費補助ノ件特別ノ詮議ヲ以テ聞届金五萬圓來廿三年度ニ於テ下付スヘシ

明治廿二年八月二日

內務大臣伯爵松方正義

丙第九五號

京都市參事會

琵琶湖疏水工事費總額ニ對スル國庫補助金拾五萬圓ヲ金二拾萬圓トシ更ニ金五萬圓下付方其筋へ稟請セシ處聞届來廿三年度ニ於テ下付スヘキ指令ヲ得タリ  
右相達ス

明治廿二年八月八日

京都府知事北垣國道

琵琶湖疏水工事ニ關スル大阪府豫防工費ノ儀今般別紙ノ通り兩府間協議致候ニ付テハ別段御差支ノ筋無之哉此段



及御協議候也

明治廿二年七月十六日

大阪府知事西村捨三  
京都府知事北垣國道

第四區土木監督署巡視長

内務三等技師田邊義三郎殿

琵琶湖疏水工事ニ關スル大阪府下豫防工費ニ付兩府知事御連署ノ趣了承右ハ御添付別紙ノ通兩府間御協議ニ候ハ、當署ニ於テハ差支ノ見込無之此段及御回答候也

第四區土木監督署

明治廿二年七月十六日

土木巡視長田邊義三郎

京都府知事北垣國道殿

別紙ハ大阪府知事ヨリ本府知事へ對スル照會書ノ通りニ付略ス

上京中及御協議候貴府琵琶湖疏水工事ニ關スル本府豫防工費ノ義節減方篤ト取調候處今回貴府ヨリ支出可相成工費當府へ御一任相成候上ハ總額七萬四千九百三拾九圓ノ内準備金六千八百拾貳圓相除キ尙工費一割減シ差引金六萬千三百拾四圓三拾錢ニテ如何様ニモ支辨可致此旨及御報道候也

明治廿二年七月十三日

大阪府知事西村捨三

京都府知事北垣國道殿

本府琵琶湖疏水工事ニ關スル貴府豫防工費ノ義本年七月十三日付ヲ以テ御報道有之候通京都市會ニ於テ致決議候ニ付該工費金六萬千三百拾四圓三拾錢本年冬季ニ於テ御交付可致候間右様御承知置相成度此段更ニ及御照會候也  
明治廿二年七月十九日  
京都府知事北垣國道



大阪府知事西村捨三殿

琵琶湖疏水要誌卷之二終

年表

明治十八年			
三月 月	三月 月	三月 月	三月 月
六日疏水係ヲ改メ職制章程ヲ定ム	十一日上下京兩區長ニ司計部長ヲ兩區書記二名ニ同部員ヲ命ス	十四日司計部事務取扱方心得ヲ定ム	十八日線路中心測置標布設ヲ内務省ニ届出ツ
三月 月	三月 月	三月 月	三月 月
六日常務員ノ制ヲ定メ聯合會議員中ヨリ交代從務セシム	三十日水量標ヲ大阪府下三嶋江及滋賀縣下南郷ニ設ク	十七日火藥庫雷管庫ヲ藤尾村山中ニ建設ス	十八日第一隧道西端地質試驗坑ヲ藤尾村ニ鑿ツ
三月 月	三月 月	三月 月	三月 月
九日陶警部長大坪收稅長以下屬官十名ニ疏水事務委員ヲ命ス	六日事務施行順序工費取扱順序及ヒ常務員從務心得ヲ定ム	十七日派出所ヲ滋賀縣下藤尾村ニ設ク	十八日湖岸ヨリ第一隧道西口迄高低測量ニ着手ス
三月 月	三月 月	三月 月	三月 月
十日上下京聯合區會ヲ開キ十七年度通常經費ヲ議定ス	十三日現金取扱爲替方ヲ三井銀行ニ命ス	十七日水量觀測人心得ヲ定ム	十八日滋賀縣下大津町運河用地買上ニ着手ス

疏水要誌卷二 ○年表



月 九	月 八	月 六	月 五	月 四
一日 藤尾工場ヲ築キ テ三保崎第一土砂 棄場ノ位置ヲ測量 ス	三日 北垣府知事尾 越事務所長及議員 第一隧道中心線ヲ 巡視ス	廿一日 上下両京區 戸長勸業諮問會員 線路ヲ巡見ス	廿八日 事務章程ヲ 改正追加ス	二十日 測量基点ヲ 大津大門町ニ設ク
月 九	月 八	月 七	月 六	月 五
十四日 第一隧道以 西運河三百二十間 堀鑿ニ着手ス	八日 藤尾村派出所 建築成ル同所ニ於 テ事務ヲ執ル	第一口 運河敷地民有 務省ノ許可ヲ得	二日 起工式ヲ舉ケ 大津三保神社ニ於 テ天智天皇御靈及 産土神ニ起工ヲ奉 告シ來賓ヲ饗ス	十日 第一隧道中心 線測量ノ爲メ三井 採山障害樹木ヲ伐 ス
月 九	月 八	月 七	月 六	月 五
十五日 火藥看護人 ヲ置ク	八日 第一隧道ヲヤ フト開鑿ニ着手ス	一日 常務員七名交 代ス	三日 八阪神社ニ於 テ桓武天皇御靈及 産土神ニ起工ヲ奉 告シ來賓ヲ饗ス	廿七日 京都建築組 東大倉組大阪藤 田組ニ工事用達ヲ 命ス
月 十	月 八	月 七	月 六	月 五
一日 常務員七名交 代ス	十一日 滋賀縣藤尾 村土地買上ニ着手 ス	廿四日 第一隧道シ ヤフト堀鑿ノ地ヲ 藤尾村字金堀谷ニ 撰定ス	七日 測量点ヲ第一 隧道東西兩端及ヒ 山頂ニ設ク	廿七日 聯合區會ヲ 開キ十八年度通常 經費ヲ議定ス

同 十九年				
月 三	月 二	月 二	月 一	月 十
八日 藤尾工場ヲ第 一隧道西口ニ置ク	二十日 天智天皇御 陵附屬地内運河經 過ノ許可ヲ宮内省 ヨリ得	一日 府知事又ハ代 理官爾來毎週三回 事務所へ出張セラ ル	廿三日 工事特撰受 負命令書案ヲ定ム	三十日 事務所ヲ藤 尾村ニ移シ派出所 ヲ廢ス
月 三	月 二	月 二	月 一	月 十
九日 大津運河堀鑿 ノ爲メ市内ノ水管 ヲ切斷セシメテ 同地飲料水ヲ補給 ス	廿八日 源山口縣令 田邊宮崎縣令工事 ヲ來觀セラル	一日 事務所職制章 程及處務規定ヲ改 正ス	廿八日 大津運河線 路ヲ測量ス	四日 扇坂本則美ヲ 庶務部長トナス
月 三	月 三	月 二	月 二	月 十
十七日 宇治郡山科 地方土地買上ニ着 手ス	四日 湖面埋立築堤 ヲ得 内務省ノ許可	二日 扇田邊湖鄭ヲ 工事部長ニ屬嶋田 道生ヲ測量部長ト ナス	一日 第一隧道西口 道路百八十間新設 ニ着手ス	十三日 火藥看護人 心得ヲ定ム
月 三	月 三	月 二	月 二	月 十
廿日 大津運河基点 以西百九十二間餘 堀割ニ着手ス	八日 隧道用材ノ爲 メ安祥寺毘沙門堂 兩官林ヲ拂下伐採 ス	六日 所員服務心得 ヲ定ム	一日 第一隧道西口 以西運河零號ヨリ 百八十間石垣工事 ニ着手ス	七日 大津工場ヲ大 津下大門町ニ置ク

疏水要誌卷二 〇年 表



月 三	月 四	月 四	月 五	月 六
廿一日第一陸道西 工事堀鑿ニ着手ス	十三日三保崎埋立 地盤沈床工事ニ着 手ス	廿九日三條内大臣 工事ヲ巡覽セラハ	十五日他府縣往復 文書ハ爾來事務所 長名義ヲ以テ發行 ス	十三日吉田農商務 次官工事ヲ巡視セ ラル
月 三	月 四	月 五	月 五	月 六
廿五日山縣内務大 臣工事ヲ巡覽セラ ル	十七日第一シヤフ ト堀鑿陸道線ニ達 ス	十二日民情視察使 渡邊元老議官工事 ヲ巡視セラハ	廿九日聯合區會ヲ 開キ十八年度追加 豫算ヲ議定ス	廿六日煉瓦製造場 ヲ宇治郡御陵村ニ 置ク
月 三	月 四	月 五	月 五	月 六
廿七日聯合區會ヲ 開キ十八年度追加 豫算ヲ議定ス	十八日シヤフト下 底ヨリ東西ニ分岐 スシ陸道堀鑿ニ着 手	十四日木材工場ヲ 宇治郡醍醐村ニ置 ク	三十一日聯合區會 ヲ開キ十九年度通 常經費ヲ議定ス	廿九日第一陸道西 口運河五十二號以 西千九百間中心線 布設成ル
月 四	月 四	月 五	月 六	月 七
廿七日聯合區會ヲ開 キ十八年度追加豫 算ヲ議定ス	廿七日樺山海軍次 官工事ヲ巡視セラ ル	十四日惡疫流行ノ 爲メ避病所消毒室 ヲ設ケ衛生委員ヲ 置ク	七日大津運河基点 以東百三間一分堀 割ニ着手ス	廿一日聯合區會ヲ開 キ十九年度追加豫 算ヲ議定ス

四

月 七	月 七	月 九	月 十	月 十
廿一日常務員交替期 ヲ一箇年ニ改ム	三十一日事務所職 制ヲ更メ阪本風ヲ 理事トナス	廿六日第一陸道東 口堀鑿ニ着手ス	八日煉瓦工場建築 ニ着手ス	十八日大津工場ヲ 三井寺山下ニ新築 ス
月 七	月 八	月 九	月 十	月 十
三日第一陸道以西 運河三十二號以手 ス二百間堀割ニ着 手	一日所員ノ分擔ヲ 定メ庶務工事測量 司計ノ四部トナス	三十日原田地質局 次長地質調査ノ爲 メ來所ス	十日第一陸道西口 窩窿工ニ着手ス	二十日田邊技師阪 本理事ヲシテ第二 第三陸道位置ヲ撰 定セシム
月 七	月 八	月 十	月 十	月 十
二十日湖岸堰留工 事ニ着手ス	九日清浦警保局長 酒井德鶴縣知事工 事ヲ來觀セラハ	六日第一陸道堀鑿 懸賞法ヲ設ク	十二日大津三保崎 埋立地ヲ京都築地 ト改稱ス	廿五日滋賀縣滋賀 郡鵜川官林拂下伐 採ニ着手ス
月 七	月 八	月 十	月 十	月 十
廿一日郷大藏次官 工事ヲ巡視セラハ	十六日第一陸道西 口側壁下窩工ニ着 手ス	七日人夫負傷治療 所ヲ設ケ醫員ヲ置 ク	十二日工事用度量 尺位ノ稱呼ヲ定ム	五日第一陸道第二 シヤフト堀鑿ニ着 手ス

疏水要誌卷二 〇年表

五



月三	月三	月三	月二	月二
廿五日煉瓦工場ニ棟ヲ増築ス	十五日滋賀縣伊庭官林伐採ニ着手ス	第二三條街道ヨリ第二隧道東口ニ達スル二百七十三間新道ヲ開設ス	十九日熾仁親王殿下工事ヲ監覽セラ	六日能久親王貞愛親王威仁親王三殿下工事ヲ監覽セラ
元田宮中顧問官工事ヲ巡覽セラル	十六日第二隧道東口掘鑿ニ着手ス	十日藤尾工場ヨリ四宮村ニ至ル新道ヲ開設ス	廿二日受負検査証案ヲ定ム	十日山科運河石垣工事ニ着手ス
廿七日第三隧道西口ヨリ三百四十號迄實測圖成ル	十七日滋賀縣御別所官林拂下伐採ニ着手ス	十一日第三隧道東口掘鑿ニ着手ス	廿八日事務所及工場間電話機架設ノ許可ヲ得	十二日伊藤總理大臣工事ヲ巡覽セラ
三十日山科運河二百一十一號ヨリ第三隧道西口迄實測圖成ル	廿二日第二隧道西口掘鑿ニ着手ス	十二日山科運河暗溝十一箇所ニ着手ス	一日第一第二第三隧道全部工事受負ヲ藤田大倉兩組ニ命ス	十七日蹴上工場ヲ宇治郡山科村字日岡ニ置ク

同  
二十年

月一	月一	月一	月二十	月一十
十五日第二第三隧道間地盤工事ニ着手ス	八日和田内務地質局長工事ヲ巡視ス	四日安朱川付替工事ニ着手ス	十五日滋賀縣滋賀郡藤尾村御別所官山石材拂下探掘ニ着手ス	九日芳川内務次官工事ヲ巡視セラル
九十三號以西三百四十三間地盤工事ニ着手ス	十五日山科運河百五號以西五百五十間地盤工事ニ着手ス	十日インクライン以西舟溜迄測量成ル	十五日煉瓦工場ヨリ東野村ニ達スル新道千三百四十二間開設ニ着手ス	十三日山科運河九號以西二百五十間及安朱川付替敷地ヲ買上ク
十六日山科運河百五十七號以西三百六十間掘鑿工事ニ着手ス	十三日山科工場ヲ第二第三隧道間ニ新築ス	五日山科運河百五號以西八百八十間地盤工事ニ着手ス	十六日隧道及運河測量ハ測者三名以上各別ノ調査ヲ經ルヲ定ム	三十日安朱川四宮兩村墓地移轉ニ着手ス
五日三條街道ヨリ第三隧道ニ達スル新道ヲ設ク	十四日四宮川付替工事ニ着手ス	六日山科運河五十號以西三百八十間地盤工事ニ着手ス	廿三日臨時聯合區會ヲ開キ十九年度追加豫算ヲ議定ス	七日聯合區會ヲ開キ隧道工事受負特許者ヲ定ムルヲ諮詢ス







月三十	月二十	月一十	月一十	月一十
廿一日聯合區會ヲ 開キ廿年度追加豫 算ヲ議定ス	八日第二隧道落成 ス	廿八日分線百七十 號点ヨリ小川頭マ テ達ル實測成ル	十四日第四第六隧 道間運河開鑿ニ着 手ス	二日醍醐村八景尾 官林ノ松樹ヲ拂受 ク
月三十	月二十	月一十	月一十	月一十
廿二日第三隧道側 壁工ニ着手ス	十日日岡ヨリ白川 スニ至ル雛形ヲ製 ス	廿九日第四隧道堀 鑿貫通ス	十四日第二隧道下 窩工ニ着手ス	四日分線三十二號 以北ト大津水量標 零位ノ高低ヲ測 ル
月二十	月二十	月一十	月一十	月一十
廿五日安朱川水路 橋成ル	十二日インクタイ ン下ヨリ鴨川開運 河及道幅等ヲ計畫 ス	廿九日三保崎第二 埋立工事ニ着手ス	十五日下京區小物 座町百々川付替工 事ニ着手ス	森文部大臣工事ヲ 巡覽セラル
月二十	月二十	月一十	月一十	月一十
廿六日事務所職制 中ニ工師測量師ノ 二項ヲ加フ	十五日インクタイ ン下ヨリ鴨川迄乙 線攢定測量ニ着手 ス	三十日火藥取締人 ヲ置キ職務心得ヲ 定ム	廿五日山科運河百 九十三號以西三百 四十三間地盤工事 成ル	十三日第二隧道ノ 側壁工成ル

月十	月九	月九	月九	月九
十二日第二隧道窩 鑿工成ル	廿三日第四隧道堀 鑿ニ着手ス	十九日第二隧道側 壁工ニ着手ス	十五日滋賀縣奥ノ 嶋官林拂下伐採ニ 着手ス	一日水路閣工事ニ 着手ス
月十	月九	月九	月九	月九
廿二日山科運河五 十二號以西五百三 十間及四宮川付替 工事成ル	廿七日分線三十一 號ヨリ五十九號迄 中心線ヲ布設ス	十九日山科運河五 十二號以西三百八 十間地盤工事成ル	十五日第一隧道以 西運河十八號ヨリ 百四十間石垣成ル	三日第三隧道窩鑿 工ニ着手ス
月十	月十	月九	月九	月九
廿七日インクタイ ンヨリ南禪寺ニ達 スル新道成ル	七日第一隧道東口 側壁工ニ着手ス	廿日岡工場建築 ニ着手ス	十六日インクタイ ン下人行隧道ニ着 手ス	八日インクタイ ン南禪寺ニ達 スル新道ヲ開設ス
月十	月十	月九	月九	月九
廿八日インクタイ ン下部舟溜ヨリ鴨 川ニ至ル中心線ヲ 布設ス	十日第四區土木監 督署長田邊技師工 事ヲ巡視ス	廿三日第六隧道堀 鑿ニ着手ス	十七日山科運河暗 溝十一箇所成ル	十一日南禪寺大日 山官林地ヲ借入ル



同 廿一年				
月二十	月一	月一	月二	月二
廿八日疏水全線路完成迄ノ諸工工期日ヲ豫定ス	四日第二隧道東西洞門工事ニ着手ス	三十日大津市街飲料補給湖水引上工事ニ着手ス	三日鹿ヶ谷以北小川頭ニ至ル測量ニ着手ス	廿八日大津開門成ル
月二十	月一	月一	月二	月二
廿八日三保崎第二埋立地測量ニ着手ス	九日第六隧道堀築貫通ス	三十一日南禪寺町ヨリ鴨川迄土地買上ニ着手ス	九日火藥取締人心得ヲ改ム	廿八日煉瓦工場ノ内北工場ヲ監獄ニ委シ四人ニ製造セシム
月二十	月一	月二	月二	月三
廿八日事務所事務取扱心得ヲ改ム	廿一日工費調査委員ヲ置ク	一日醍醐官林拂下伐木事業ニ着手ス	十一日大津運河石垣成ル	三日インクライン以西要所ニ測量石点ヲ設ク
月二十	月一	月二	月二	月三
第二隧道下窩工成ル	廿九日事務所ヲ藤尾村ヨリ蹴上ニ移ス	二日淨土寺官山石材拂下採掘ニ着手ス	廿八日大津運河三保崎北國兩橋架設ニ着手ス	五日山科運河百八十號以西六十間石垣ニ着手ス

月三	月四	月五	月五	月六
十日菩提寺官林拂下伐採事業ニ着手ス	廿七日第二第三隧道間運河地盤工事成ル	廿六日宇治郡木幡村木材伐採ニ着手ス	三十一日滋野少將工事ヲ來觀セラル	九日牧野秘書官工事ヲ來觀ス
月三	月五	月五	月六	月六
十五日南禪寺町ヨリ鴨川ニ至ル用地買上ニ着手ス	三日鹿ヶ谷村安樂寺ニ測量員出張所ヲ設ク	廿六日西村土木局長田邊巡視長工事ヲ巡視ス	三日第三隧道堀築貫通ス	廿三日枝線路ニ係ル大日南禪寺若王子官林ヲ借入ル
月四	月五	月五	月六	月六
十日醍醐村日野山木材伐採ニ着手ス	九日第一隧道西口以西運河第二木橋架設工事ニ着手ス	廿七日第一隧道西口洞門工事ニ着手ス	五日山科運河三百七號以西インクライン築立地盤工事成ル	廿八日滋賀縣奥嶋官林拂下伐採ニ着手ス
月四	月五	月五	月六	月七
十二日三保崎埋立波止場ヲ廢シ上下京區民共有地ニ變更ノ許可ヲ得	廿一日府知事、郡區長、戸長區會議員勸業諮問會員及京阪津神ノ新聞記者ヲ導キ工事ヲ巡視セシム	廿七日上京區若王子光雲寺官林ヲ枝線用地ニ借入ル	五日第三隧道西口運河堀削工事成ル	一日南禪寺裏運河崩壞ノ箇所修繕ニ着手ス



月二十	月一十	月一十	月九	月九
三十日山科運河六 十六號以西水拔工 事ニ着手ス	九日インクライン 下三百二十四號以 西五十間堀割ニ着 手ス	十六日第一隧道三 十二號以西二百間 石垣及橋梁成ル	三十日インクライ ン下ヨリ鴨川迄堀 割工事ニ着手ス	廿四日大津シャフ ト兩工場分應隧道 區域間敷ヲ更正ス
月二十	月一十	月一十	月一十	月九
一日シャフト下部 コソクリト工事ニ 着手ス	十三日土方宮内大 臣工事ヲ巡覽セラ ル	廿四日和田地實局 長工事ヲ巡見ス	二日日向神社道橋 梁架設ニ着手ス	廿五日赤松海軍中 將工事ヲ來覽セラ ル
月二十	月一十	月一十	月一十	月九
十一日インクライ ン下三百二十四號 以西五十間堀割 ニ着手ス	廿日隧道下宮工 コソクリトニ改ム	三十一日疏水線路 中日岡以西ヲ幹枝 ナ内務省ニ得 ナ線ニ變更ノ許可	五日第一隧道東口 崩壞坑夫六十五名 鎖閉四十七時間ヲ 經テ閉通シ死傷一 人モナシ	廿五日第六隧道南 口ターム工事ニ着 手ス
月二十	月一十	月一十	月一十	月九
十三日阪本理事 地質上伺ノ爲メ東 上ス	廿九日京都築地石 垣ニ着手ス	七日山科運河張石 垣築工事ニ着手ス	八日田邊工師高木 委員水力利用取調 ノ爲メ渡米シ翌年 一月三十日歸京ス	廿五日第三隧道西 口洞門工事ニ着手 ス

月九	月八	月八	月七	月七
十五日山本農商務 省技師工事ヲ來觀 ス	十六日インクライ ン下ヨリ鴨川ニ至 ル買上地圖成ル	四日松方大藏大臣 工事ヲ巡覽セラル	十日第一隧道東口 洞門工事ニ着手ス	二日渡邊大學總長 工事ヲ來觀セラル
月九	月八	月八	月七	月七
廿一日第四第六隧 道落成ス	三十日水路開成ル	六日京都築地捨石 工事ニ着手ス	十八日聯合區會ヲ 開キ廿一廿二兩年 度通常經費ヲ議定 ス	三日シャフトヨリ 掘鑿部内ノ穹窿工 ニ着手ス
月九	月九	月八	月七	月七
廿四日臨時聯合區 會ヲ開キ水力取調 委員洋行費ヲ議ス	三日山科運河五十 二號ヨリ第三隧道 東口迄堤防石垣工 事ニ着手ス	六日水力配置方法 研究委員渡米ノ爲 メ區會議員ノ相談 會ヲ開ク	廿八日運河中藤尾 村ニ水門一箇所ヲ 設ク	四日大津運河三保 崎北國兩橋成ル
月九	月九	月八	月七	月七
廿四日臨時聯合區 會ヲ開キ廿一年度 追加豫算ヲ議ス	十二日煉瓦場南工 場築屋及建物ヲ賣 却ス	十一日愛宕郡田中 村知恩寺ニ測量員 出張所ヲ設ク	三日枝線鹿ヶ谷以 北小川頭迄土地買 上ニ着手ス	十日枝線中鹿ヶ谷 以北ノ線路ヲ定ム



同  
廿二年

月 三	月 三	月 一	月 一	月 三 十
廿九日臨時聯合區 會ヲ開キ大阪府下 水防工費支出ノ件 ヲ議定ス	一日枝線運河若王 子以ヨリ小河頭 迄掘割工事ニ着手 ス	廿一日ヤフト工 場ヲ藤尾工場ト合 併ス	十日第四第六隧道 洞門及兩隧道間運 河落成ス	廿七日土地買上不 服者ニ對スル内務 省ノ指令ヲ得
廿二日勅使西四辻 侍從工事ヲ巡覽セ ラレテ圖面寫眞及ヒ 要誌ヲ呈ス	廿日宇治村大宅村 木材伐採ニ着手ス	一日上京區東門前 町ニ蹴上工場派出 所ヲ設ク	十五日第一隧道東 口二十間穹窿ヲ橋 圓形ニ變更ス	
一日山科運河五百 二號以西千七百五 十三間張石工事ニ 着手ス	廿一日會計年度改 正ノ爲メ聯合區會 ヲ開キ六月二年度 月ヨリ六月ニ至ル 經費ヲ議定ス	十五日インクライ ン下ヨリ鴨川ニ至 ル運河開鑿工事ニ 着手ス	十五日ヤフト工 部コンクリート下 落成ス	
一日西郷海軍大臣 工事ヲ巡覽セラレ	廿二日伊藤區密院 議長工事ヲ巡覽セ ラル	廿七日第一隧道堀 鑿東西貫通ヲ三月 十日貫通式ヲ行フ	十七日愛宕郡各村 枝線用地買上ニ着 手ス	



欠

MISSING



<p>月 四 九日疏水竣工式ヲ 舉行ス 天皇陛下 皇后宮陛下 臨御ナ 賜ハル</p>	<p>月 三 二十日聖護院開門 成ル</p>	<p>月 二 十五日大津開門番 所成ル</p>
<p>月 四 同日賞與式ヲ舉ヒ 府知事ハ尾越事務 所長以下ノ功勞ヲ 賞シ市會議長ハ府 知事以下ノ功勞ヲ 謝ス</p>	<p>月 四 一日疏水竣工奉告 祭ヲ行ヒ大津ニ於 テハ天智天皇御靈 ヲ祭リ桓武天皇御 靈ヲ祭リ併テ京都 御靈ヲ祭リ併テ 祭ル</p>	<p>月 二 廿五日第三回内國 勸業博覽會へ出品 疏水工事雛形成ル</p>
<p>月 四 廿四日工事ノ爲メ 死亡セシ者ノ追薦 會ヲ洛東南禪寺ニ 行フ</p>	<p>月 四 五日市會ヲ開キ竣 功式舉行ノ際工事 ノ功勞アル府知事 ニ功勞アル府知事 ノ爲メ記念碑ヲ建 設スル及疏水工事 務所員ニ賞與セシ ヲ議定ス</p>	<p>月 三 廿四日市會ヲ開キ 廿三年度臨時歳出 ヲ議定ス</p>
<p>月 六 三十一日疏水事務 所ヲ閉チ殘務ハ府 廳内ニ於テ處理ス</p>	<p>月 四 八日疏水工事成チ 以テ祝宴ヲ開キ皇 族及各大臣以下千 五百有餘名ヲ饗ス</p>	<p>月 三 十五日全線路ノ通 水ヲ試ニ好績ヲ得</p>



明治廿五年十二月廿五日印刷  
同年同月廿六日出版

版權登錄

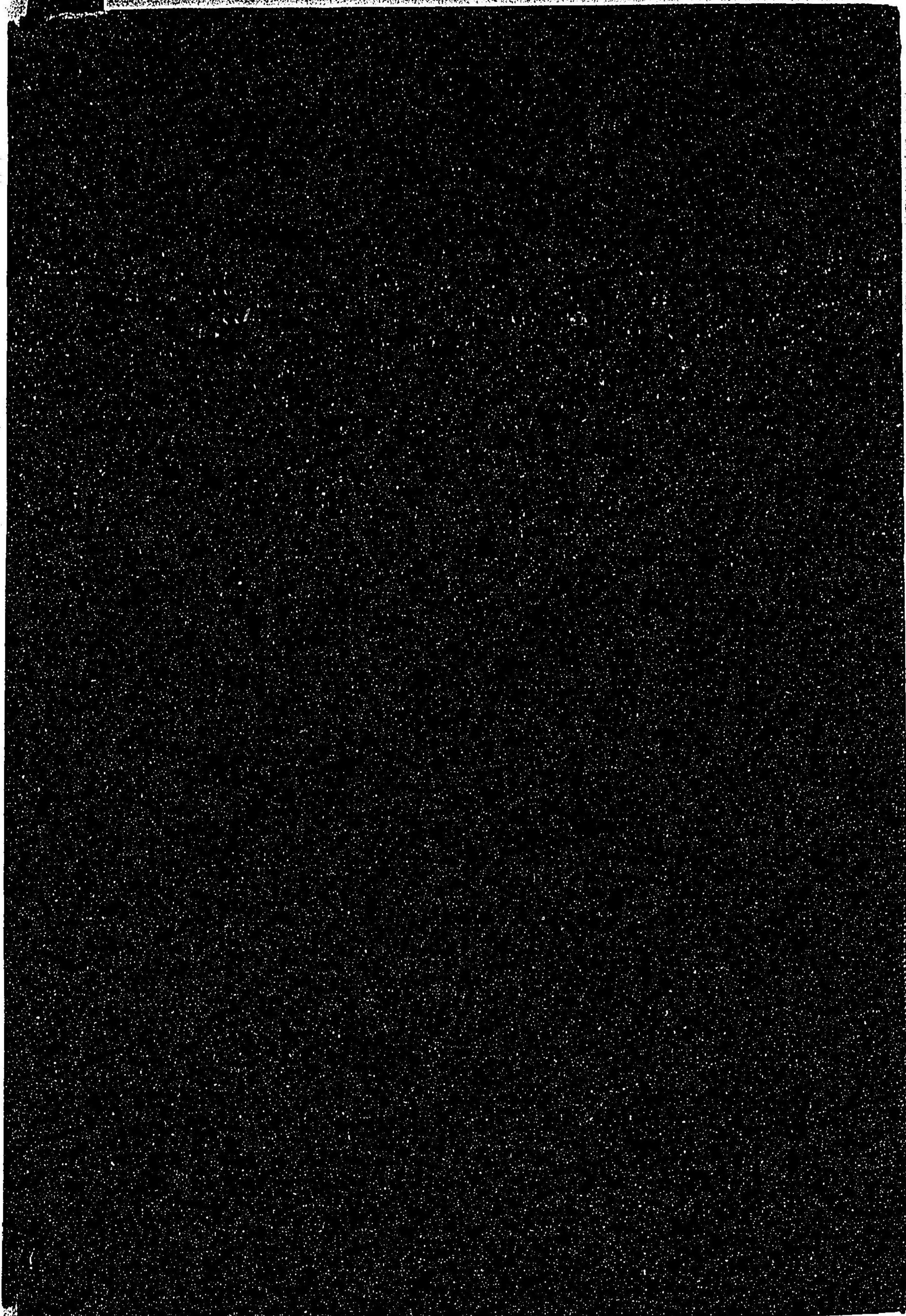
京都市參事會

京都市下立賣通小川東入西大路町拾番戶  
印刷者 中西嘉助



27
55







27  
55

臺灣湖濱水產誌

中央  
研究院  
生物研究所



